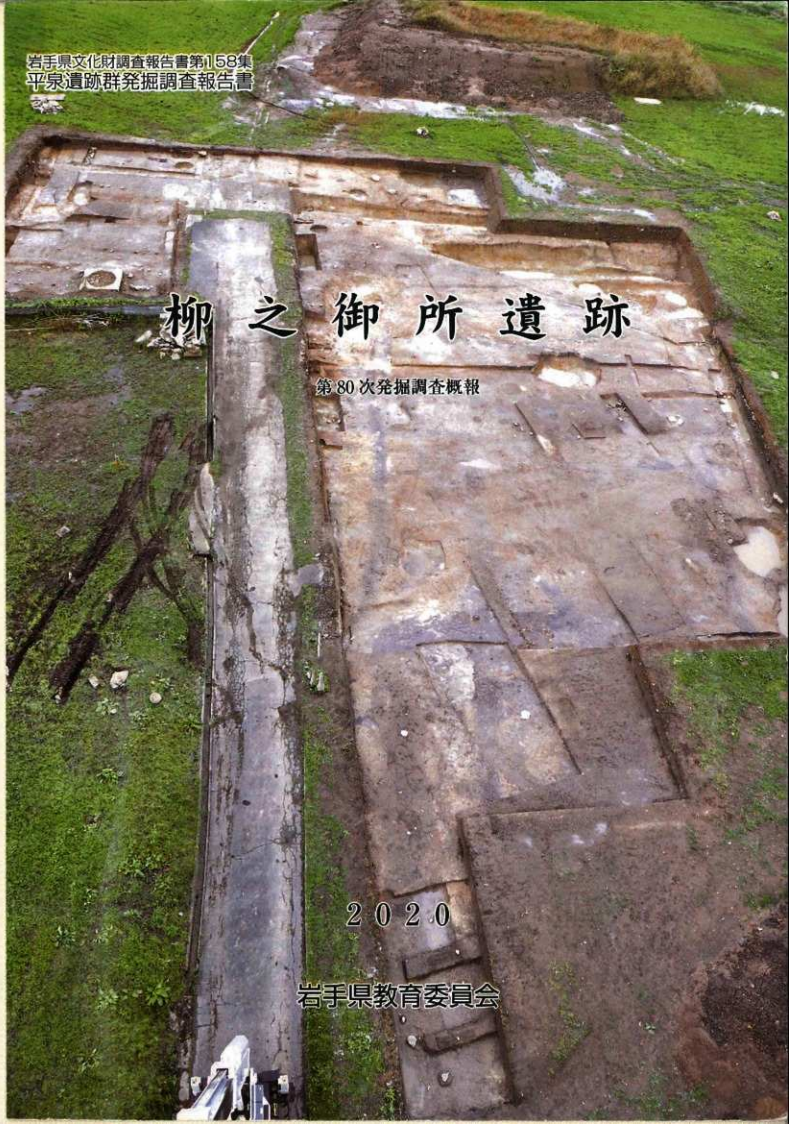
岩手県文化財調査報告書第158集
平泉遺跡群発掘調査報告書
之十

柳之御所遺跡

第80次発掘調査概報



2020

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第158集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第80次発掘調査概報

2020

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏が残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つです。本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一関遊水地事業及び国道４号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・園池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわらけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土しました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が『吾妻鏡』に記された「平泉館」であることが指摘されました。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）の御理解により、平成５年には遺跡の保存が決定し、平成９年３月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備し後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。平成21年度からは史跡公園として公開され、これまで多くの方々に御来園いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されましたが、柳之御所遺跡は平成24年に暫定リストに登載されております。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値や評価に向けて活動を継続していく所存です。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成にあたり、御指導・御協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の委員、文化庁、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

令和２年３月

岩手県教育委員会
教育長　佐　藤　　博

例　　言

1．本書は、岩手県教育委員会が平成30年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成30年６月１日～10月31日である。

2．本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課が主体となり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに業務の一部を委託して実施した。

3．遺構の呼称は、昭和63年度に（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。

ＳＡ：塀・柱列　　ＳＢ：掘立柱建物　　ＳＣ：道路状遺構　　ＳＤ：溝・堀

ＳＥ：井戸・井戸状遺構　　ＳＫ：土坑・柱穴の一部　　Ｐ：柱穴

例：80ＳＤ１　第80次調査の第１号溝

4．図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺１／３を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構・遺物写真については縮尺不定である。

5．野外調査は、生涯学習文化財課柳之御所担当櫻井友梓・（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター村上拓、本書に係る編集・執筆は生涯学習文化財課柳之御所担当菊池貴広・（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター北村忠昭が行った。

6．調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。

7．遺構の埋土観察、遺物の色調観察は『新版標準土色帖』を参考にした。

8．後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。

安達調仁　伊藤博幸　井上雅孝　及川　司　及川真紀　島原弘征　鈴木弘太　高橋千晶

七海雅人　羽柴直人　本澤慎輔　前川佳代　八重樫忠郎（50音順：敬称略）

岩手県立博物館　(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　平泉文化遺産センター

文化庁

9．本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目　次

Ⅰ 序　論 …… 1
1 遺跡の位置と調査経緯 …… 1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会 …… 3
3 今年度の調査 …… 5

Ⅱ 調 査 内 容 …… 9
1 調 査 概 要 …… 9
2 検 出 遺 構 …… 17
3 出 土 遺 物 …… 38

Ⅲ 総　括 …… 57

図 版 目 次

図版1　遺構　調査区全景
図版2　遺構　東部飛び地トレンチ全景
　　遺構　80SB1検出
図版3　遺構　80SC1・80SC2全景
　　遺構　25SD2(右)と25SD3・7(左)全景
図版4　遺構　25SD3・7と80SA3西側全景
　　遺構　25SD3・7断面A5-A6
図版5　遺構　25SD3・7断面B1-B2
　　遺構　29SD1・80SA1全景
図版6　遺構　29SD1断面
　　遺構　80SA3断面A5-A6
　　遺構　80SA3断面B1-B2
　　遺構　80SA3底面の立板状痕跡
　　遺構　80SA1断面
図版7　遺構　25SD2西側全景
　　遺構　25SD2断面A5-A6
図版8　遺構　25SD2断面B2-B3
　　遺構　80SD1・80SA2全景
図版9　遺構　80SD1断面A4-A5
　　遺構　80SD1断面B1-B2
図版10　遺構　80SA4断面
　　遺構　80SA4底面の立板状痕跡
　　遺構　80SA2全景
　　遺構　80SA2断面
　　遺構　80SD2検出
図版11　遺構　80SD2(30-43周辺)検出
　　遺構　80SD2断面
　　遺構　80SD2遺物出土状況
　　遺構　80SD3断面
　　遺構　80SD3検出
図版12　遺物　かわらけ①
図版13　遺物　かわらけ②
図版14　遺物　かわらけ③
図版15　遺物　かわらけ④・国産陶器①
図版16　遺物　国産陶器②
図版17　遺物　国産陶器③・中国産磁器

挿 図 目 次

図1　遺跡位置図 …… 2
図2　調査区位置図 …… 6
図3　遺構配置図（全体図） …… 10
図4　調査区縦断断面図1 …… 11
図5　調査区縦断断面図2 …… 12
図6　調査区縦断断面図3 …… 15
図7　80SB1 平面図 …… 18
図8　80SK1・80SK6 平断面図 …… 19
図9　80SC1 平面図 …… 21
図10　80SC1 断面図1 …… 22
図11　80SC1 断面図2 …… 23
図12　80SC2 平面図 …… 27
図13　80SC2 断面図1 …… 28
図14　80SC2 断面図2 …… 29
図15　80SD2・80SD3 平面図 …… 33
図16　80SD2・80SD3 断面図 …… 34
図17　遺構配置図旧グリッド表記（全体図） …… 37
図18　出土遺物(1) …… 40
図19　出土遺物(2) …… 41
図20　出土遺物(3) …… 42
図21　出土遺物(4) …… 43
図22　出土遺物(5) …… 44
図23　出土遺物(6) …… 45
図24　出土遺物(7) …… 46
図25　出土遺物(8) …… 47
図26　出土遺物(9) …… 48
図27　出土遺物(10) …… 49
図28　遺物包含層出土のかわらけ集成図 …… 59
図29　道路状遺構全体図 …… 60

挿 表 目 次

表1　発掘調査年次計画 …… 3
表2　平泉遺跡群調査整備指導委員会 …… 3
表3　平泉遺跡群調査整備指導委員会協議事項 …… 4
表4　80SC1 土層対応表 …… 25
表5　80SC2 土層対応表 …… 31
表6　柱穴一覧表 …… 36
表7　遺物観察表（かわらけ） …… 50～52
表8　遺物観察表（国産陶器） …… 53～55
表9　遺物観察表（中国産磁器） …… 56

Ⅰ 序　　論

1　遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、緯度・経度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（旧日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵があり、東に北上川、西から南にかけて猫間が淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。遺跡の北側の一部は北上川の流路により浸食されたと考えられるため、本来の遺跡の形状には不明な点が残る。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

この遺跡は本格的な発掘調査の開始以前から奥州藤原氏に関連する内容をもつことが想定されていたが、多くは北上川の洪水等により削平を受けて失われたものと考えられていた。そのため、遺跡は一関遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、大規模な発掘調査が行われることとなった。調査開始以前の予想に反して、調査当初より多くの遺構・遺物が確認され、調査の進展に伴って内容が明らかになり、その価値が高く評価されることとなった（財　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995）。この成果を受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。これまでの調査は、当面の整備対象となる堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺構遺物の両面から研究が深化している。平成30年度には堀内部地区の総括報告書が刊行され、堀内部地区の調査は一区切りを迎え、同年より堀外部地区の調査を開始している。この調査に先立つ堀外部地区の調査は一関遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、平泉町教育委員会が行っており、報告書が刊行されている。その後も平泉町教育委員会による小規模な調査が行われてきている。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して猫間が淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも、細部で異なる伽藍の内容が確認されている。伽羅御所跡は地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定する見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり遺跡の様相や性格を明確に示すものは確認されていない。近年の調査により周辺部で溝跡等も確認されており、区画の様相も検討されつつある。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。北上川を挟んだ東岸域や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉に関連する遺跡の分布範囲が周辺に広がることが明らかになり、検討が行われてきている。

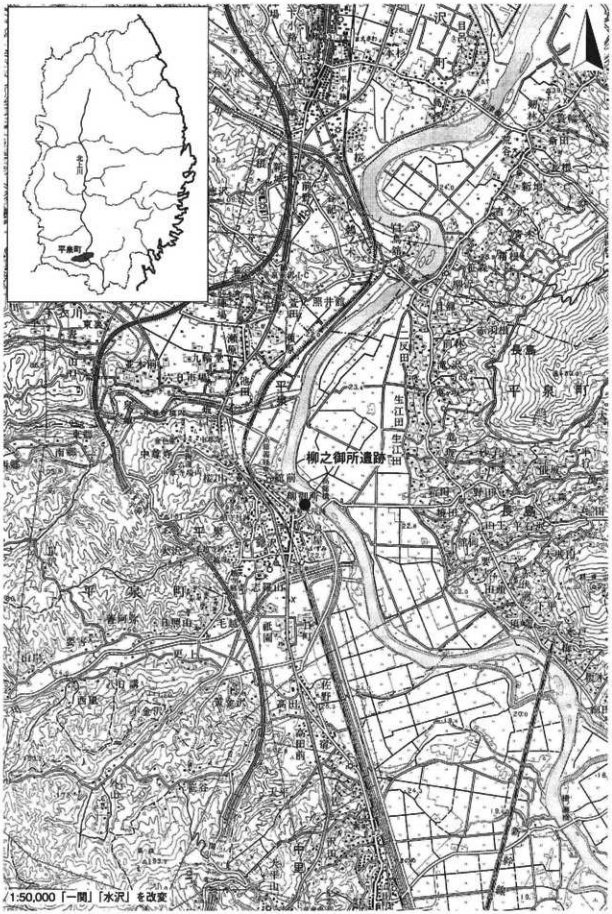


図1　遺跡位置図

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を、下表のとおり計画を立てて進めている（表１）。

平成30年度調査（第80次）は堀外部地区の第１次計画の初年度にあたる。第１次計画は道路状遺構を中心に発掘調査を行い、道路状遺構の延伸方向の確認、構築時期の確認、道路状遺構と直交する区画との関係確認等の検討と整備に関わるデータ収集を主な目的とした。第80次調査を含む計画については表３に示した。

調査整備に関しては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度は世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した（表２）。平成30年度の委員会・専門部会は表３の通り開催した。

表１ 発掘調査年次計画

	年 次	調査次数	調 査 内 容 等	調査面積	調査期間	備 考
第１次計画	平成30年度	第80次	・既調査範囲での道路状遺構の再確認。 ・道路状遺構の延伸確認。 ・道路状遺構周辺の遺構の把握。	800㎡	６月４日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
	平成31年度 令和元年度	第81次	・道路状遺構の構築時期の検討。 ・道路状遺構と区画との検討。	800㎡	６月６日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
	令和２年度	第82次	・道路状遺構の延伸確認と構築時期の検討。 ・道路状遺構と区画との検討。	800㎡		
	令和３年度	第83次	・堀外部地区の遺構様相の把握。 ・道路状遺構の構築時期の検討。	800㎡		
第２次計画	令和４年度	第84次	・区画の様相把握と所属時期の検討。 ・区画及び区画周辺の遺構様相の把握。	800㎡		
	令和５年度	第85次	・道路状遺構の南側の遺構様相の把握。 ・道路状遺構の北側との比較検討。	800㎡		
	令和６年度	第86次	・道路状遺構の南側の遺構様相の把握。 ・堀外部地区総括報告書の刊行	800㎡		

表２ 平泉遺跡群調査整備指導委員会

（平成30年４月現在、役職は当時）

氏 名	役 職	専門部会
入間田宣夫	東北大学名誉教授	整備・ガイダンス
遠藤セツ子	平泉メビウスの会事務局	整備・ガイダンス
○岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	副委員長・保存・整備
小野 正敏	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構・ガイダンス
坂井 秀弥	奈良大学文学部教授	遺構・保存
斉藤 利男	弘前大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構・整備
清水 擴	東京工芸大学名誉教授	遺構
関宮 治良	前平泉町商工会議所事務局長	保存・整備
田中 哲雄	前東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎田辺 征夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	委員長・遺構
玉井 哲雄	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存・ガイダンス

※ ◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会
ガイダンス：「平泉の文化遺産」ガイダンス施設整備検討部会

表3　平泉遺跡群調査整備指導委員会協議事項

回	日　時	内　　容
第1回ガイダンス施設整備検討部会	30. 4.27	ガイダンス施設基本計画の策定及び建築設計案について
第1回保存管理検討部会委員からの意見聴取	30. 6.18	包括的保存管理計画について
		ガイダンス施設の遺産影響評価について
第2回ガイダンス施設整備検討部会	30. 7.20	
第1回遺構整備合同部会	30. 7.20	保存管理計画検討部会報告
		ガイダンス施設整備検討部会報告
		柳之御所遺跡の調査・整備について
		無量光院跡の調査・整備について
第1回平泉遺跡群調査整備指導員会本委員会	30. 9. 6～7	ガイダンス施設の遺産影響評価について
		ガイダンス施設整備について
		柳之御所遺跡の調査・整備について
		無量光院跡の調査・整備について
		「平泉の文化遺産」関連遺跡の調査について
		世界遺産拡張登録について
		平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－包括的保存管理計画の改定について
		接待館遺跡保存活用計画について
第3回ガイダンス施設整備検討部会	30.10. 2	ガイダンス施設の平面プランの変更点について
		展示の基本的な考え方について
第2回平泉遺跡群調査整備指導委員会　遺構・整備合同部会	30.11.20	包括的保存管理計画の改定について
		ガイダンス施設整備について
		柳之御所遺跡総括報告書について
		柳之御所遺跡の調査・整備について
		無量光院跡の調査・整備について
第4回ガイダンス施設整備検討部会	30.12.20	ガイダンス施設展示設計(案)について
第2回平泉遺跡群調査整備指導委員会本委員会	31. 2.14	無量光院跡の調査・整備について
		柳之御所遺跡の調査・整備について
		ガイダンス施設整備について
		長者ヶ原廃寺跡の調査について
		骨寺村荘園遺跡の調査について
		「平泉の文化遺産」の保存管理計画について

3 今年度の調査（図2）

(1) 調査体制

＜岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課（文化スポーツ部文化振興課併任）＞

総 括 課 長	佐藤 公一
文 化 財 課 長	鎌田 勉（H31. 3.31まで）
文 化 財 課 長	岩渕 計（H31. 4. 1から）
主幹兼世界遺産担当課長	佐藤 嘉広（H31. 3.31まで）
世 界 遺 産 課 長	佐藤 嘉広（H31. 4. 1から）
文化財専門員	千葉 正彦（H31. 3.31まで）
上席文化財専門員	半澤 武彦（H31. 4. 1から）
主 査	女鹿 光介（H31. 3.31まで）
主 任 主 査	作山 雄一（H31. 4. 1から）
文化財専門員	大道 篤史
文化財専門員	大関 真人
文化財専門員	櫻井 友梓（H31. 3.31まで）
文化財専門員	菊池 貴広（H31. 4. 1から）

＜（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター＞

所 長	佐々木一成
主任文化財専門員	村上 拓（H31. 3.31まで）
文化財専門員	北村 忠昭（H31. 4. 1から）

(2) 調査区の位置と調査目的

平成30年度調査（第80次）は遺跡の北辺部周辺の未調査範囲を主な対象とした（図2）。近年まで宅地等が所在し、これまで未調査の範囲で遺構の分布状況等に不明な点が多い。ただし、第80次調査の対象とした範囲の北側には平泉町教育委員会が実施した第25次及び第27次調査が隣接し、多くの遺構・遺物が確認されている。調査区の南端では平泉遺跡調査会による第7次調査の調査区と考えられる段差が確認されている。

今回の調査目的のひとつは道路状遺構の位置と内容の確認である。調査範囲は道路状遺構が確認された第25次及び第27次調査の西側の未調査の範囲にあたる。道路状遺構は中尊寺金色堂方向へ延伸されることが推察されていたが、正確な位置や構築時期など不明な点も多く残されていた。そこで、延伸方向の確認と構築時期の確認を一つの目的とした。

もう一つは、道路状遺構周辺の遺構の様相が不明なことが多いことから、これらの様相の把握を目的としている。道路状遺構の北側は、平泉町教育委員会が実施した調査によって区画の存在が確認され、区画のあり方によって3時期程度の変遷が想定されているが、道路状遺構の南側は未調査なことから、遺構の分布や変遷等は不明である。そのため、特に道路状遺構の南側の遺構の把握と周囲の性格検討のための材料を得ることも目的としている。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部

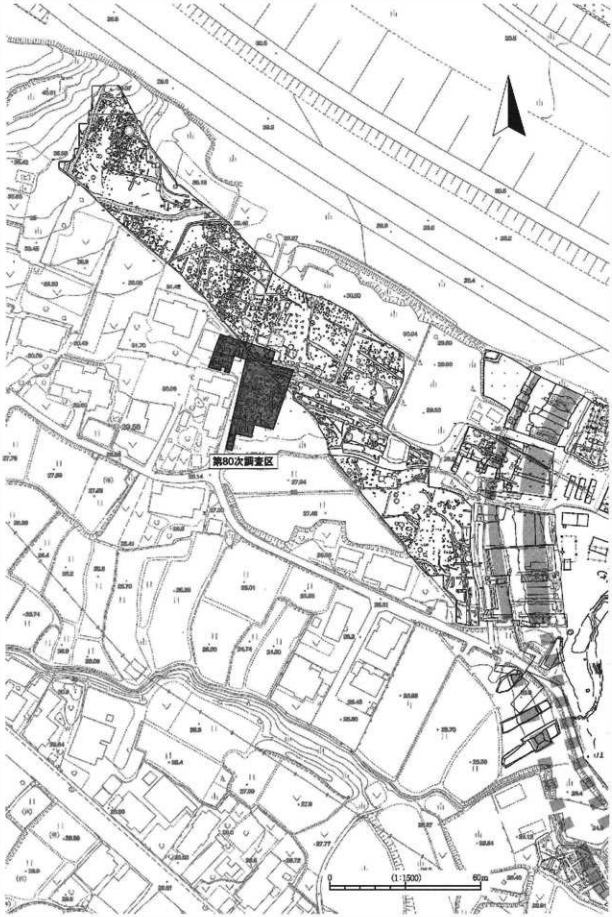


図2　調査区位置図

の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形に合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである（財　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995)。平面直角座標第Ⅹ系(旧日本測地系)をもとにした５×５ｍグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に０°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点（０、０）となる。

なお、第49次調査まではグリッドの呼称をＸ座標方向、Ｙ座標方向の順にしていたが、第50次調査以降、その順を逆転させＹ座標方向、Ｘ座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を踏襲し、たとえば66-70（Ｙ-Ｘ）グリッドならばＸ軸方向が70、Ｙ軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の改変による耕作土の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。なお、調査時の、地震後の改測成果と以前の測量成果の混同により、今年度調査時にグリッド位置が錯誤している。その対応については取り上げグリッドとの呼称を付し、その内容を後述した。遺構図面及び遺構に関する記述の表記については修正しており、表記のものが正である。

また、本遺跡の周辺では大規模な調査の開始以降に宮城県東部地震や東日本大震災により大きな地形の変動を受けている。その後に行った再測量において当遺跡内での座標変動とその数値を改めて確認している。ただし、柳之御所遺跡内での継続調査においては1988年以来進めているグリッド内での位置を示すことが調査研究の継続上有効と考えており、旧座標におけるグリッド表記を行うこととする。そのため現在の調査においても現地においては旧日本測地系の座標を基準として設定しており、発掘調査における測量及び報告書等の記載は従来の局地座標で行う。

局地的な調査継続としては上記のように考えられるものの、柳之御所遺跡は周囲の遺跡との関係性も研究上重要であることが認識されてきている。それらの比較や整備、その基準となる図面作成においては世界測地系の正確な座標値を把握、更新する必要性も高い。そのため、東日本大震災後の成果に基づいた改測成果を把握することで対応に努めていきたい。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、表土の厚さや堆積状況を把握するために一部を人力による掘削を行い、表土の厚さを確認後、重機による表土掘削を行った。表土の除去後は、鋤簾などの道具を使用して確認調査（検出作業）を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半裁等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は５ｍグリッドを分割した１×１ｍのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真についてはデジタルカメラを使

用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次精査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査次数である80を付して遺構略号を使用したが（例80SK○○）、既往の発掘調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については、旧番号（既調査で命名）を本書においても使用している。具体的には道路状遺構を構成する長大な3条の溝跡は既調査で確認されている遺構と同一であることから、25SD2、25SD3・7、29SD1の遺構名称を継続して用いる。

整理作業

野外調査終了後の平成30年11月1日から平成31年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検の後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と、既知の遺構でも半裁などにより精査した遺構について記載している。

普及活動

普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった平成30年10月19日に現地説明会を行った。生憎の天候であったが約50名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

Ⅱ 調 査 内 容

1 調査概要

第80次調査区は岩手県教育委員会が実施する堀外部地区最初の発掘調査である。今回の調査区は平泉町教育委員会が実施した第25次調査（平成元年度）と第27次調査（平成２年度）の南側に隣接する。また、調査区の南端には平泉遺跡調査会による第７次調査の調査区の一部と考えられる段差が確認されている。本来の地形は高館から延びる丘陵尾根が南東に延び、そこを境に北側は北上川へ下がり、南側は猫間が淵へ下がる地形である。公有地化以前の状況は宅地及び田畑であり、階段状に平坦に造成されている。調査対象面積は800㎡である。

第80次調査区は堀外部地区で検出された道路状遺構と想定している２条の溝跡（25SD3と29SD1）が延伸すると考えられる範囲で、この延伸方向と構築時期を把握することとともに、道路状遺構よりも南側での遺構分布等の様相を把握することも目的としている。

調査区内は宅地造成時の削平などによる地形の改変が著しく、盛土層を除去すると検出面である黄褐色粘土層が確認できる状況は調査区北側で顕著である。また、近世以降の陶磁器を包含する暗褐色土層を除去すると黄褐色粘土層が広範囲で確認されており、12世紀以降の土地改変が広範囲にわたっている。調査区内の基本層序は下記の通りである。

Ⅰ層　表土層・盛土層。調査区縦断面のA2-A3の南側を境に北側は現表土層が大きく削平され、盛土がなされている。その盛土層の上に薄く表土層が形成されている状況である。

Ⅱ層　暗褐色土層。攪乱層や盛土層の下位に残存する旧表土層。摩滅したかわらけ細片がまんべんなく包含される土層。12世紀以降の堆積層である。上部には近世以降の陶磁器が確認されており、細分が可能である。

Ⅲ層　黒褐色土層。調査区縦断面のA1-A2の南側で確認されている。南側ほど残存が良好である。木炭小片を多く包含するとともに、略完形かわらけをはじめ大形の破片を包含する。

Ⅳ層　褐色土～黄褐色粘土層。12世紀のいわゆる地山層である。柳之御所遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層である。道路状遺構を構成する溝跡の壁面では褐色土、褐色粘質土、黄褐色粘土が確認でき、細分が可能である。上部の褐色土は古段階の道路状遺構の堆積土に類似しており、12世紀の表土であった時期が想定される。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図３）。次節では精査を行った遺構を中心に記述する。

掘立柱建物	３棟
土　坑	７基
道路状遺構	２箇所（溝跡４条、塀跡４条）
溝　跡	22条（道路状遺構を構成する溝も含む）
塀　跡	５条（道路状遺構を構成する塀も含む）
近世墓	１基
焼土範囲	２箇所
不明遺構	４基
井　戸	２基
柱　穴	191個（掘立柱建物を構成するものも含む、12世紀以降のものを含む）

（過年度調査分を含む）

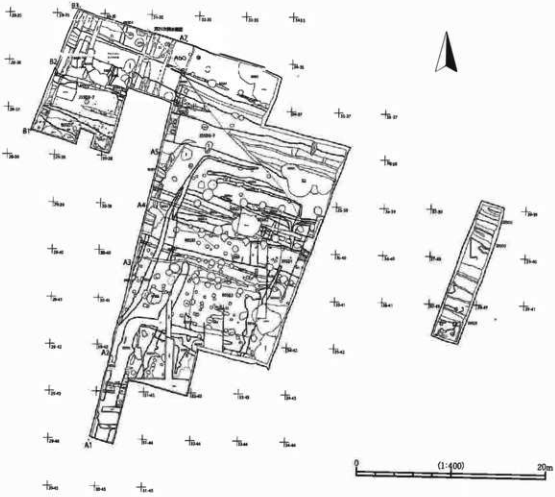


図３　遺構配置図（全体図）

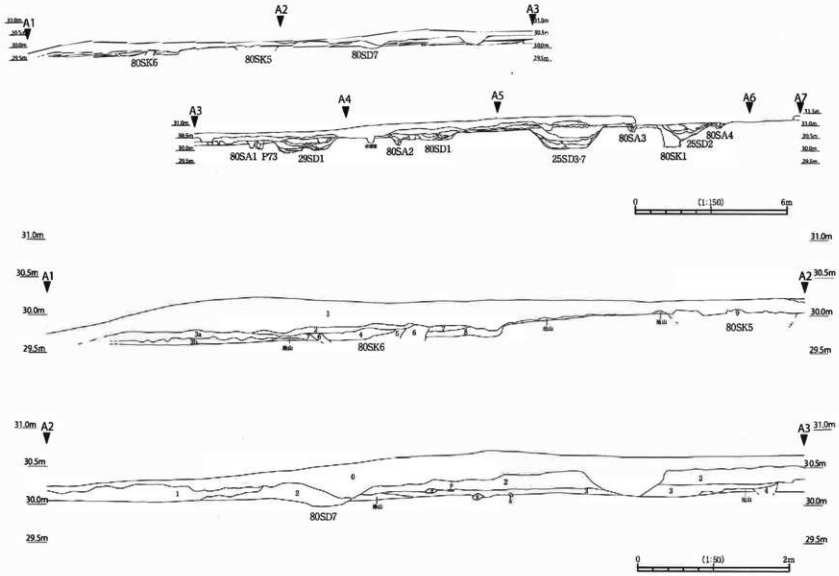


図4 調査区遺構平面図 1

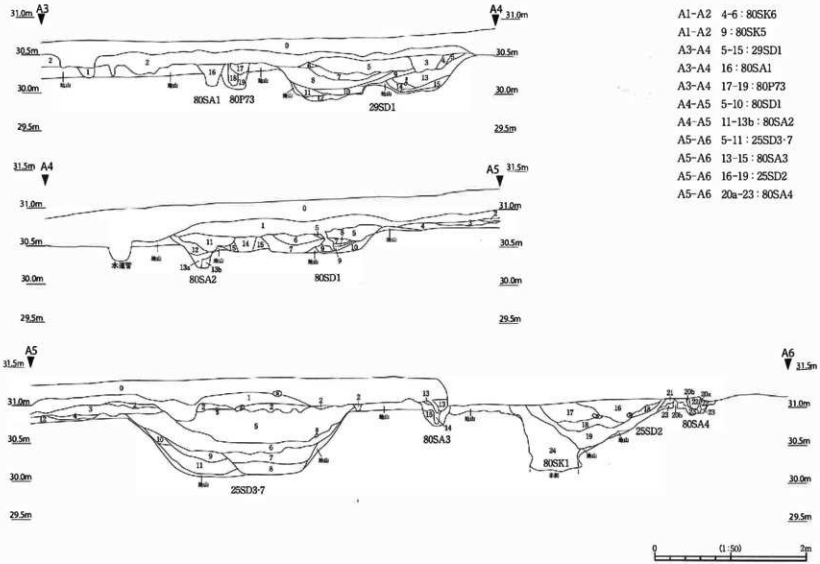


図5 調査区縦断断面図2

【YG80断面A1-A2】

0.　客土層

1.	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	土器細粒・小礫(径2-5mm)極微。
2.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	土器細粒・小礫(径2-5mm)極微(上よりやや多い)。
3a.	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性やや強	締まりやや密	土器細片やや多。炭粒(径5mm)微。7層の再堆積か。
3b.	10YR3/1-2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	白色化した地山粘土ブロックやや多。土器片入らない。
4.	10YR3/1-2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	土器細片少。黒み強い。
5.	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	土器細片やや多。炭細片(径5-10mm)少(目立つ)。
6.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	土器細片少。炭粒極微。
7.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	締まりやや疎	土器細片集中層。
8.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	締まり中	土器細片やや多。地山黄色土ブロック(径10-20mm)少。
9.	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	

【YG80断面A2-A3】

0.　A1-A2の0層

1.　A1-A2の1層

2.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性やや弱	締まり密	小礫(径2mm)・炭粒(径5mm)極微。酸化斑やや多。
3.	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	粘性中	締まり密	地山黄色土ブロック(径10-20mm)極微。炭粒・土器細粒極微。
4.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径5-10mm)多。人為層。

【YG80断面A3-A4】

0.　A1-A2の0層

1.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	地山黄色土ブロック(径10-20mm)少。ピットまたは溝状の掘り込み。
2.	A2-A3の2層					
3.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	地山黄色土ブロック(径5-20mm)多。ピット埋土か。
4.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土質シルト	粘性中	締まり中	地山黄色土ブロック(径5-20mm)少。炭粒(径5mm)極微。ピット埋土か。
5.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	10YR6/4-6/6地山粘土質シルトブロック(径50mm前後)やや多。 全体に酸化斑顕著で砂質帯びる。
6.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	5層に似るがやや暗く、かわらけ細片・炭粒を微量含む。
7.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	かわらけ小片・炭小片(径10mm前後)微量含む。
8.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	酸化小斑(径5mm)全体に顕著。
9.	10YR5/1-5/2	褐灰-灰黄褐色	粘土	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5mm)微。8層に比してやや暗い。
10.	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	炭小片(径10mm)極微。
11.	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	地山黄色土ブロック(径20～50mm)やや多。
12.	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	
13.	10YR5/1-6/2	褐灰-灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	
14.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径20-30mm)やや多。
15.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	全体やや砂質
16.	10YR5/2-5/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	締まり密	酸化小斑(径5mm)全体に顕著。8層に よく似る。
17.	10YR5/2-5/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	地山黄色土ブロック(径20-30mm)多。5層に似る。
18.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	炭粒(径2-5mm)微。かわらけ細片極微。全体に黒味。
19.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	酸化斑全体に顕著。16層によく似る。

【YG80断面A4-A5】

0.　A1-A2の0層

1.　A2-A3の2層

2.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性弱	締まり中	
3.	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	地山黄色土ブロック・褐色砂(4層土)全体に含む。
4.	10YR6/3-5/3	にぶい黄橙-にぶい黄褐色	細砂	粘性中	締まり中	下位の摩大礫分布面を被覆する土層。
5.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	土器細粒微。

6.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	土器細粒極微。炭粒(径5mm)極微。地山黄色土ブロック(径10cm)微。5層に似るがやや黒味。
7.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径10-30mm)やや多。
8.	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	炭粒(径5mm)少。全体に黒味強。
9.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5mm)極微。地山黄色土ブロック(径10mm)少。
10.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径10-20mm)多。
11.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	地山黄色土ブロック(径20-30mm)やや多。7層によく似る。
12.	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性やや強	締まり中	4層に似る。
13a.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径10-40mm)やや多。
13b.	10YR7/6-6/6	明黄褐色	粘土ブロック層	粘性やや強	締まり密	地山土ブロックによる埋め戻し層。
14.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	
15.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山土全体に含みやや黄味。下位の拳大礫分布面を被覆。

【YG80断面A5-A6】

0. A1-A2の0層
1. A2-A3の2層
2. 10YR4/2-3/2 灰黄褐-黒褐色 シルト 粘性中 締まり中 かわらけ細片やや多。(旧耕土か。80SX1～3の埋土に酷似。)
3. A4-A5の2層
4. A4-A5の3層
5. 10YR5/2-5/3 灰黄褐-にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 締まり密 地山黄色土ブロック(径10-50mm)やや多。かわらけ細片・炭小片(径10mm)極微。円礫(径10cm)極微。
6. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性やや強 締まりやや密 10YR5/3にぶい黄褐色中砂のラミナを数枚挟む。砂に酸化斑集積。
7. 10YR5/3にぶい黄褐色中砂・粗砂と10YR5/2灰黄褐色粘土の互層。粘性中。締まりやや緩。
8. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性やや強 締まり中 北整部に地山黄色土ブロック(径10-30mm)少。
9. 10YR5/2-4/1 灰黄褐-褐灰色 粘土 粘性強 締まりやや密 中砂ラミナ数見。
10. 10YR5/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 締まりやや密 地山黄色土ブロック(径50mm)やや多。
11. 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性強 締まり中 地山黄色土ブロック(径10-20mm)微。
12. A4-A5の4層
13. 10YR5/2-4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 締まり密 地山黄色土ブロック(径10-20mm)少。
14. 10YR4/2-4/3 灰黄褐-にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 締まりやや密 炭粒(径2-5mm)極微。地山黄色土ブロック(径5-10mm)微。混入ブロックは攪拌されたように引き伸ばされマーブル状呈す。
15. 10YR4/2-4/3 灰黄褐-にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 締まり密 地山黄色土ブロック(径10-40mm)やや多。掘方埋土か。
16. 10YR5/2-4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 締まり密 土器細片微。炭粒(径5mm)極微。最深部に中砂ラミナ。拳大礫点在。
17. 10YR5/2-4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 締まり密 土器細片微。炭粒(径5mm)極微。全体に酸化斑。拳大礫南縁に沿って点在。
18. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 締まり密 炭粒(径2-5mm)極微。17層・19層に比して粘土質強くやや黒味帯びる。
19. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 締まりやや密 土器細粒・炭粒(径5mm)微。(18層より混入目立つ)。
20a. 10YR5/1-5/2 褐灰-灰黄褐色 粘土 粘性やや強 締まり中 遺構底面の筋状痕から連続して立ち上がる土層。板材痕跡か。
20b. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 締まりやや密 炭粒(径2-5mm)極微。杭跡または根攪乱か。
21. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性中 締まりやや密 地山黄色土ブロックやや多。
22. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 締まり密 地山黄色土ブロック多(21層に比してずっと多い)。
23. 10YR6/2-6/3 灰黄褐-にぶい黄橙色 粘土 粘性強 締まりやや密 10YR4/2灰黄褐色粘土小ブロック極微含む。地山土の再堆積層。
24. 10YR4/1-4/2 褐灰-灰黄褐色 シルト 粘性やや強 締まりやや密 地山黄色土ブロック(径10-50mm)多。木炭小片(径20-40mm)微(目立つ)。かわらけ小片極微。人為による一括埋め戻し土。下位未掘部に連続。

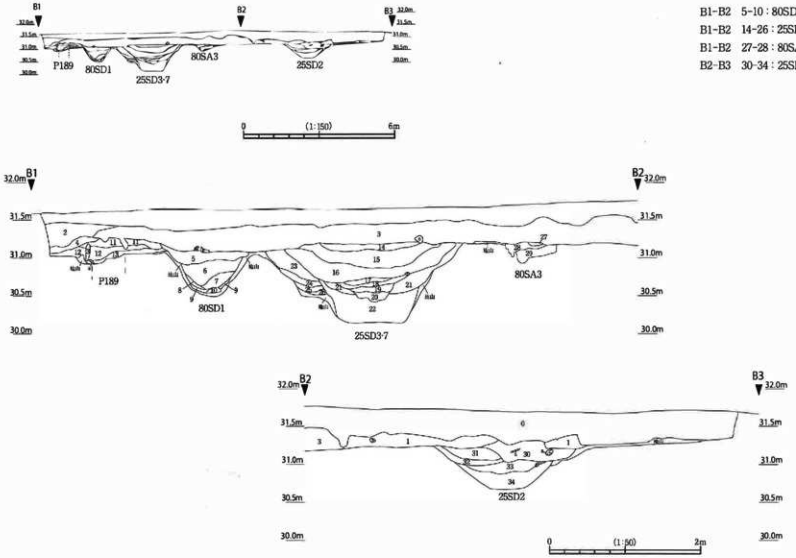


図6 調査区遺構平面図3

【YG80断面B1-B2-B3】

0.	客土層					
1.	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	締まり中	地山土ブロック(径5-10mm)極微。グライ化によりやや青味帯びる。
2.	10YR3/2-3/3	黒褐-暗褐色	シルト	粘性中	締まりやや弱	炭粒(径5mm)微(目立つ)。全体に草模入り軟急馬い。
3.	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	締まり中	土器細片 ・ 炭粒(径5-10mm)全体に偏りなく微量含む。80SX1～3の埋土は本層。
4.	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	3層土と地山土ブロックの混土層。
5.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土	粘性やや強	締まりやや密	土器細片・炭粒(径5-10mm)極微。
6.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土	粘性中	締まり中	土器小片・炭粒(径10mm)少。5層に比して多く黒味帯びる。
7.	10YR5/4-6/6	にぶい黄褐-明黄褐色	粘土ブロック層	粘性やや強	締まりやや密	地山土崩落層。
8.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	地山土ブロック(径20-40mm)多。崩落層。
9.	10YR4/1-3/1	褐灰-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	炭粒(径5-10mm)極微。
10.	7層に同じ。					
11.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径10-20mm)多。炭粒(径5mm)極微。
12.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	全体にやや砂質。炭粒(径5mm)極微。
13.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	
14.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	地山黄色土ブロック(径5-20mm)少。
15.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	土器細粒・炭粒(径5-10mm)極々微。地山黄色土ブロック(径10-20mm)微。
16.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	地山黄色土ブロック(径20-50mm)やや多。中砂ブロックを斑状に含む。23層土に地山ブロック含む層。
17.	10YR4/1-5/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5mm)極々微。
18.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	中砂	粘性弱	締まり中	全体に酸化斑著。
19.	10YR4/1-5/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	17層によく似る。下部に細砂含む。
20.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	中砂	粘性弱	締まりやや疎	全体に酸化斑著。18層によく似る。
21.	10YR5/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径5-10mm)やや多。炭粒(径5mm)極々微。
22.	10YR4/1	褐灰色	粘土	粘性強	締まり中	地山黄色土大径ブロック(径30-200mm)やや多。下面付近に腐植散見。
23.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	締まり密	全体に酸化斑。
24.	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロックの薄層挟む。
25.	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	
26.	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径10-50mm)多。
27.	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルトブロック層	粘性やや強	締まり密	
28.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径5-10mm)極微。80SA3南壁直下底面に連続して延びる小溝(幅3-4cm)から上位に立ち上がる土層。板状材が底面に食い込んだ痕跡のように見受けられる。
29.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径10-30mm)やや多。 80SA3に重複するピット状掘り込みの埋土(人為層)。
30.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5-10mm)極々微。径20cm前後の礫僅かに含む。
31.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	シルト	粘性やや強	締まり中	土器細片微(目立つ)。
32.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性強	締まり中	土器細片少。炭粒(径5mm)微。31層に似るが黒味強い。
33.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径20-30mm)を挟む水成層。炭粒(径5-10mm)極々微。
34.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径10mm)微。炭粒(径5-10mm)微。

2 検出遺構

(1) 掘立柱建物

80SB1（図7）

〔位置・検出状況・精査方法〕 31-39～33-40グリッドに位置する。12個の柱穴を検出した。本遺構については、規模の確認のみにとどめている。

〔規模・形状〕 東西棟の掘立柱建物で、5×1間の建物跡である。主軸方向はN－82°－Wである。1尺を30.3cmとすると、桁行6.6尺（2.00m）、7.6尺（2.3m）、9.2尺（2.78m）、梁行14.6尺（4.42m）と多様である。規模は11.39×4.42m、床面積は50.34m²である。

〔埋土・堆積状況〕 本遺構を構成する柱穴は混入量の差があるものの、ブロック土を含むのが特徴的である。検出のみであるため、深さは確認できていないが、P43とP44に関しては、柱痕跡を確認している。

〔重複・先後関係〕 80SC1を構成する29SD1と80SA1と重複し、本遺構を構成する柱穴がこれらの遺構を切って構築している。この他、P38はP36に、P47はP93に切られ、P39はP34を、P41はP27を、P46はP86・87を、P47はP85を、P48はP83を切っている。また、80SD3、80SD12、80SD17とも重複関係にあるが、直接的に切り合う部分がないため、新旧関係は不明である。

(2) 土 坑

80SK1（図8）

〔位置・検出状況・精査方法〕 31-36グリッドに位置する。削平面である地山黄褐色土層上面において、80SC2を構成する25SD2の南側に地山黄色土ブロックを多量に包含する灰褐～灰黄褐色シルトの円形状の範囲として検出した。25SD2の堆積状況の確認と合わせて、本遺構の西側の掘り下げを行ったが、下半部については、同一の堆積土が続くことを確認するにとどめ、東側の未掘部分と合わせ保存することとした。

〔規模・形状〕 開口部径1.4×1.28mで、底部径は一部の精査にとどめたため不明であるが、60cm前後と推察される。確認した深度は90cmで、それ以下は未掘である。壁はほぼ直立して立ち上がり、開口部付近で開きながら立ち上がる。

〔埋土・堆積状況〕 確認した範囲では、地山黄色土ブロックを多量に包含する灰褐～灰黄褐色シルトが堆積している（A5-A6 24層）。この堆積層はかわらけ小片や木炭小片を包含する人為層で、新期の道路状遺構の北側の溝である25SD2の構築時に埋め戻されたことが推察される。

〔重複・先後関係〕 80SC2を構成する25SD2に切られている。

〔出土遺物〕 図19 図版15

80SK6（図8）

〔位置・検出状況・精査方法〕 30-43グリッドに位置し、西側は調査区外に広がっている。30-42グリッドから南に延伸する80SD2の状況を確認するため、30-43グリッド周辺を拡張して掘り下げを行ったところ、80SD2よりも新しいと考えられる土坑状の落ち込みを検出した。調査区を縦断する断面（A断面）観察によるが、土器細片が集中する灰黄褐色土層を切って構築されている。本遺構は検出段階でとどめており、底面形状等は不明である。

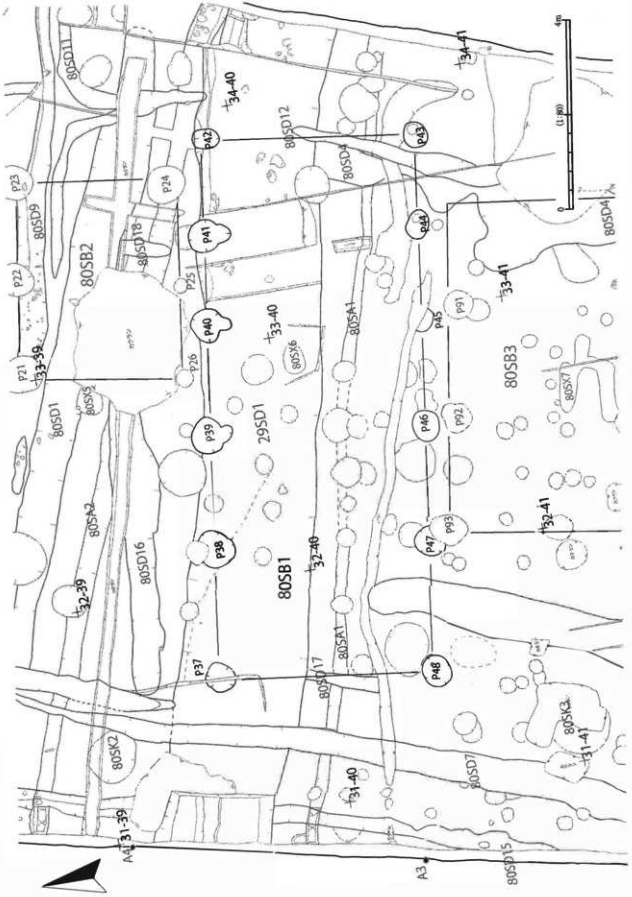
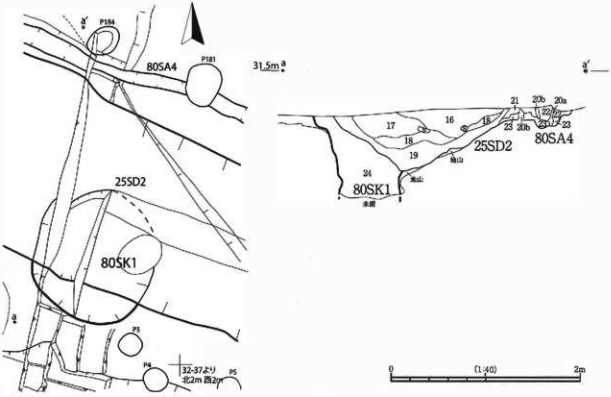

80SB1
80SB2
80SB3
29SD1
80SD1
80SD2
80SD3
80SD4
80SD5
80SD6
80SD7
80SD9
80SD11
80SD12
80SD15
80SD16
80SD17
80SD18
80SK1
80SK2
80SK3
80SK4
80SK5
80SK6
80SK7
P21
P22
P23
P24
P25
P26
P37
P38
P39
P40
P41
P42
P43
P44
P45
P46
P47
P48
P91
P92
P93
32-39
33-39
31-39
32-40
33-40
34-40
31-40
32-41
33-41
34-41
31-41
A3
A4
0
4m
(1:80)

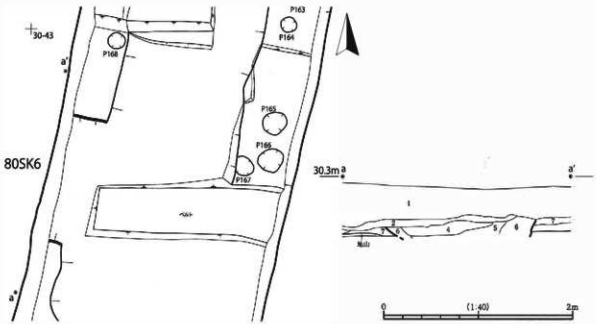
図7　80SB1 平面図



80SK1

【YG80SK1(A5-A6)】(SP.a-a')

24. 10YR4/1-4/2 褐灰-灰黄褐色 シルト 粘性やや強, 締まりやや密, 地山黄色土ブロック(径10-50mm)多, 木炭小片(径20-40mm)微(目立つ), かわらけ小片極微, 人為による一括埋め戻し土, 下位未掘部に連続.



80SK6

【YG80SK6(A1-A2)】(SP.a-a')

4. 10YR3/1-2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強, 締まりやや密, 土器細片少, 黒み強い.

5. 10YR3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強, 締まりやや密, 土器細片やや多, 炭細片(径5-10mm)少(目立つ).

6. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強, 締まり密, 土器細片少, 炭粒極微.

図8 80SK1・80SK6 平断面図

〔規模・形状〕　一部しか精査をしていないことや西側が調査区外に広がっていることから詳細な規模は不明である。確認できる南北方向は最大で1.36mである。確認した深度は18cmで、それ以下は未掘である。壁は45°～60°程の角度を持って立ち上がる。
〔埋土・堆積状況〕　一部しか精査をしていないため、詳細は不明であるが、壁際にはA1-A2の7層に類似する灰黄褐色土の堆積が確認でき、3a・3b層に類似する黒褐色土で埋没している。その後、土器細片を包含する灰黄褐色から黒褐色シルト層が被覆している。
〔重複・先後関係〕　80SD2と重複する。遺構の切り合い部分の堆積状況を確認していないが、本遺構の堆積土層である黒褐色土が80SD2の一部を切っており、本遺構が新しいと推察される。

(3)　道路状遺構

80SC1（25SD3・7、29SD1、80SA1、80SA3）（図9～11）
〔位置・検出状況・精査方法〕　平泉町教育委員会により実施された第25次・第29次・第30次調査の際に道路状遺構と想定された遺構である。これらの遺構の延長を本調査区でも確認し、これらの遺構と明確に同時期と想定される遺構が伴わないことから、25SD3・7と29SD1の2条の溝を道路両脇の側溝と捉え、これらに挟まれた区域を道路状遺構とした。この溝には、塀跡が伴っており、本遺構は北側側溝の25SD3・7、南側側溝の29SD1、北側側溝に伴う塀の80SA3、南側側溝に伴う塀の80SA1の遺構群で構成される。本遺構は、本調査区の北側の大部分にわたるもので、南北方向X=40ラインより北側に位置する。各遺構は西北西-東南東方向に走行する帯状範囲として検出した。検出面は後世の宅地造成や開田に伴う削平された地山面である。隣接する既往調査区では、北側の側溝は25SD7を25SD3の造り替え若しくは浚渫と想定しているが、本調査区内では一体化しており、25SD3・7としている。また、25SD3と25SD7は斜面下、29SD1は平坦面に構築される環境の違いから埋没速度がことなり、浚渫が必要であったと推察しているが、本調査区では、29SD1が斜面下に位置している。精査は、必要に応じて数カ所のトレンチを設定して、様相の確認を行っている。また、既往調査区については、埋め戻し土の掘削を行い、状況の再確認を行っている。
〔規模・形状〕　25SD3・7は既往調査区も含め確認できた延長は32m、29SD1は確認できた延長17.5m、80SA3は延長17m、80SA1は延長16.4mである。南北側溝ともに西北西-東南東を向き直線状である。25SD3・7はN-75°-W、29SD1はN-74°-W、80SA3はN-77°-W、80SA1はN-75°-Wの傾きを持つ。南北側溝間の幅は東端の芯芯で10.6m、両側溝が確認できる西端の芯芯で10.2mである。各遺構の上幅は25SD3・7が2.33～3.3m、29SD1が2.47～2.7m、80SA3が0.25～0.57m、80SA1が0.59～0.31mである。堆積状況を確認した部分での深度は25SD3・7が0.94～1.06m、29SD1が0.47～0.58m、80SA3が0.17～0.35m、80SA1が0.29mである。溝断面形は造り替えや浚渫が行われているため、一様ではないが、ある段階でV字状を呈することがあるものの、概ね逆台形状を呈する。80SA3の底面には板材の痕跡と想定される幅3～4cmの溝状の痕跡と支えの柱材の痕跡と想定される直径15～20cmの柱痕跡が確認できる。

図9　80SC1 平面図

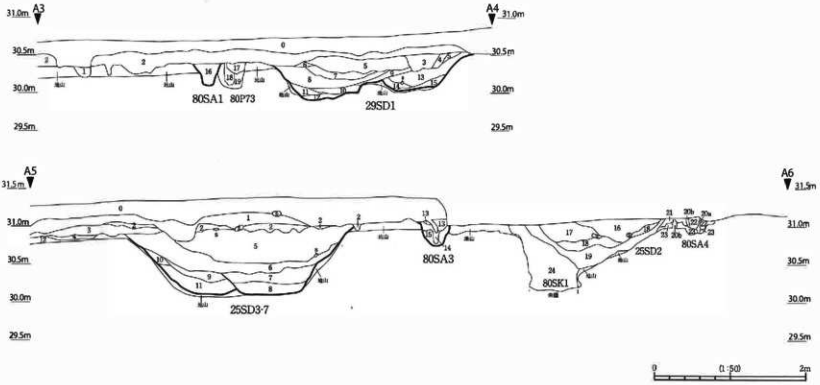
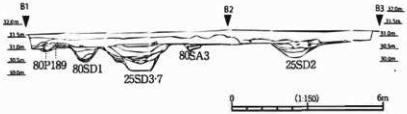


図10 80SC1 断面図1



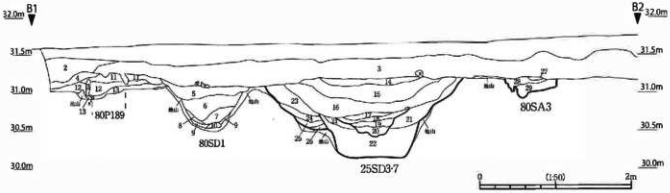


図11 80SC1 断面図2

〔土層注記→24頁〕

〔所見等〕

<29SD1>

5-12：新期堆積土。

5：人為による埋め戻し土層。

6・7：かわらけは小〜細片。

11：壁崩落土層。

13-15：古期堆積土。

14：崩落土層。

<25SD3-7>

〔A5-A6〕

5-8：新期堆積土。細分(5・6と7・8)可能。

5：人為による埋め戻し土層。酸化鉄斑。

6-8：水成堆積層

9-11：古期堆積土

9：水成堆積層

10：崩落土層

11：水成堆積層

〔B1-B2〕

14-22：新期堆積土。細分(14-16、17-20、21・22)可能。

14-16：人為による埋め戻し土層。酸化鉄斑顕著。

22：断続的な壁崩落を伴う自然堆積層。

23-26：古期堆積土。

26：壁崩落土層。

【80SC1　断面A3-A4】5-15：29SD1　16：80SA1

5.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	10YR6/4-6/6地山粘土質シルトブロック(径50mm前後)やや多。全体に酸化斑顕著で砂質帯びる。
6.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	5層に似るがやや暗く、かわらけ細片・炭粒を微量含む。
7.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	かわらけ小片・炭小片(径10mm前後)微量含む。
8.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	酸化小斑(径5mm)全体に顕著。
9.	10YR5/1-5/2	褐灰-灰黄褐色	粘土	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5mm)微。8層に比してやや暗い。
10.	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	炭小片(径10mm)極微。
11.	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	地山黄色土ブロック(径20～50mm)やや多。
12.	10YR6/2-5/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	
13.	10YR5/1-6/2	褐灰-灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり密	
14.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径20-30mm)やや多。
15.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	全体やや砂質。
16.	10YR5/2-5/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	締まり密	酸化小斑(径5mm)全体に顕著。8層によく似る。

【80SC1　断面A5-A6】5-11：25SD3・7　13-15：80SA3

5.	10YR5/2-5/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径10-50mm)やや多。かわらけ細片・炭小片(径10mm)極微。円礫(径10cm)極微。
6.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	締まりやや密	10YR5/3にぶい黄褐色中砂のラミナを数枚挟む。砂に酸化斑集積。
7.	10YR5/3にぶい黄褐色中砂・粗砂と10YR5/2灰黄褐色粘土の互層。粘性中。締まりやや疎。					
8.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性やや強	締まり中	北壁際に地山黄色土ブロック(径10-30mm)少。
9.	10YR5/2-4/1	灰黄褐-褐灰色	粘土	粘性強	締まりやや密	中砂ラミナ散見。
10.	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径50mm)やや多。
11.	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	粘性強	締まり中	地山黄色土ブロック(径10-20mm)微。
12.	A4-A5の4層					
13.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	地山黄色土ブロック(径10-20mm)少。
14.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径2-5mm)極微。地山黄色土ブロック(径5-10mm)微。混入ブロックは撹拌されたように引き伸ばされたマーブル状呈す。
15.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径10-40mm)やや多。

【80SC1　断面B1-B2】14-26：25SD3・7　27・28：80SA3

14.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	地山黄色土ブロック(径5-20mm)少。
15.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	土器細粒・炭粒(径5-10mm)極々微。地山黄色土ブロック(径10-20mm)微。
16.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	地山黄色土ブロック(径20-50mm)やや多。中砂ブロックを斑状に含む。23層土に地山ブロック含む層。
17.	10YR4/1-5/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5mm)極々微。
18.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	中砂	粘性弱	締まり中	全体に酸化顕著。
19.	10YR4/1-5/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	17層によく似る。下部に細砂含む。
20.	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	中砂	粘性弱	締まりやや疎	全体に酸化顕著。18層によく似る。
21.	10YR5/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径5-10mm)やや多。炭粒(径5mm)極々微。
22.	10YR4/1	褐灰色	粘土	粘性強	締まり中	地山黄色土大径ブロック(径30-200mm)やや多。下面付近に腐植散見。
23.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	締まり密	全体に酸化斑。
24.	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロックの薄層挟む。
25.	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	
26.	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径10-50mm)多。
27.	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土質シルトブロック層	粘性やや強	締まり密	
28.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径5-10mm)極微。80SA3南壁直下底面に連続して延びる小溝(幅3-4cm)から上位に立ち上がる土層。杭状材が底面に食い込んだ痕跡のように見受けられる。

表4　80SC1 土層対応表

遺構名	層群	特徴等	断面A(A5-A6)	断面B(B1-B2)
25SD3・7	④	人為による埋め戻し土層。酸化鉄斑。	5	14－16
25SD3・7	－		6	－
25SD3・7	③	砂層と粘土(貧土)層との互層。	7	17－20
25SD3・7	②	新期の下部堆積層。逆台形。地山ブロック含む。	8	21－22
25SD3・7	①	古期の堆積層。壁崩落土層含む。	9-11	23－26
－	－	礫面被覆層。	12	12－13
80SA3	－	－	13－15	27－28

〔埋土・堆積状況〕　本遺構の堆積状況については、遺構毎に堆積状況を観察した箇所別に記載する。

・25SD3・7（A5-A6：図10）

31-37グリッドの調査区際で観察した。図の左側が猫間が淵側になる。A5-A6間の5～11層が本遺構の堆積土である。当該部分を概観すると、9～11層と7・8層間が不連続になっており、少なくとも新古の2時期が想定される。9～11層は古期と推察される段階の南側側溝の堆積層である。この段階の溝は途中に南壁の崩落と推察される地山ブロックを多量に包含する堆積土が確認でき、流水等の影響による堆積の過程で壁の崩落を伴い、埋没したものと推察される。上部の堆積には中砂のラミナが散見される。この堆積土の北壁を切るように7・8層が堆積している。7層はにぶい黄褐色砂と灰黄褐色粘土の互層で、流水等による影響下の堆積が繰り返されたものと考えられる。繰り返し浚渫等のメンテナンス行為が行われ、溝幅が最大級になったものと推察されるが、流水等の影響により埋没が始まり、最終的には人為的に埋め戻されている。

・25SD3・7（B1-B2：図11）

29-36から28-37グリッドにわたる調査区際で観察した。図の左側が猫間が淵側になる。B1-B2間の14～26層が本遺構の堆積土である。14～16層がA5-A6間の5層、17～20層はA5-A6間の7層、21・22層はA5-A6間の8層、23～26層はA5-A6間の9～11層に対比される。A5-A6間と比較すると、2時期の底面標高に大きな差が見られる。23～26層が古期と推察される段階の南側側溝の堆積層である。24層や26層に地山起源の黄色ブロック土が包含されており、A5-A6と同じように壁の崩落を伴う堆積状況にあったものと推察される。次の段階ではA5-A6ラインより深く掘削している。そのことにより、古期よりは底面標高の維持が図られていると想定されるが、同じように断続的な壁の崩落を伴う堆積により埋没している。17～20層はA5-A6間の7層に対比されるものであるが、断面形はV字状になっている。中砂と粘土質シルトの互層で堆積状況は7層と類似している。最終的にはA5-A6間と同じように人為的に埋め戻されている。

・29SD1（A3-A4：図10）

31-39から30-39グリッドの調査区際で観察した。図の左側が猫間が淵側になる。A3-A4間の5～15層が本遺構の堆積土である。堆積土は大きく5～9層、10～12層、13～15層の3群に分けられる。13～15層と10～12層は直接切り合わないために、両群の関係は不明であるが、少なくとも、13～15層の古期とその他の2段階が想定される。15層は北側から14層は南側からの堆積状況を示す自然堆積と推察される。南側の底面付近の堆積状況は14・15層と類似している。9層下面を壁とする段階では南壁と北壁の立ち上がりに大きな差が見られる。南側側溝も北側側溝と同様に、最終的には人為的に埋め戻されている。

・80SA3（A5-A6：図10）

31-36グリッドで観察した。A5-A6間の13～15層が本遺構の堆積土である。15層は地山起源の黄色土ブロックを多く包含し、材の掘り方埋土と想定される。14層は幅7～8㎝で垂直方向に下がっており、材の痕跡が想定される。

・80SA3（B1-B2：図11）

29-36・28-36グリッドの調査区際で観察した。残存状態が悪く、10㎝程しか層高が確認できない。27・28層が本遺構の堆積土である。28層は南壁直下に幅3～4㎝程の板材状の痕跡に連続して見られる堆積層である。上部には人為的に埋め戻した堆積土（27層）が部分的に残存している。

・80SA1（A3-A4：図10）

30-39グリッドの調査区際で観察した。A3-A4間の16層が本遺構の堆積土である。29SD1の8層に類似している。全体的に酸化鉄斑が顕著で、流水等による影響を受けた堆積状況にあったものと推察される。

〔重複・先後関係〕　広範囲に及ぶ遺構であるため、プラン内には様々な遺構との関係が確認できるが、直接的に重複関係を把握できるもののみを記載する。80SD5～7・80SD11・80SD15・80SD16・80SD18・80SA5・80SX1～3・80SX5・80P1・80P2・80P24・80P31・80P32・80P180・80P181・80P191と重複し、80SD5・80SD6を切り、その他の遺構に切られる。

〔出土遺物〕　図17・18　図版12・15

80SC2（＝25SD2、80SD1、80SA2、80SA4）（図12～14）

〔位置・検出状況・精査方法〕　25SD2と80SD1がほぼ平行し、この溝に挟まれた区域には同時期と想定される遺構が伴わないこと、80SC1と同様に、溝の外側に塀が伴うことから同様な構造を持つ道路状遺構とした。本遺構は北側側溝の25SD2、南側側溝の80SD1、北側側溝に伴う塀の80SA4、南側側溝に伴う塀の80SA2の遺構群で構成される。25SD2は既往調査区では25SD3・7と平行する北側の区画溝として捉えられていたものである。本遺構は、調査区北側にあり、南北方向X=39ラインより北側に位置する。各遺構は西北西-東南東方向に走行する帯状範囲として検出した。検出面は後世の宅地造成や開田に伴う削平された地山面である。80SD1は31-38グリッドで削平等により途切れている。80SA4は既往調査区では段差として痕跡が残っていたことから認識した。また、西側は31-36グリッドで25SD2の肩に取り込まれるように不鮮明になっている。精査は、必要に応じて数カ所のトレンチを設定して、様相の確認を行っている。また、既往調査区については、埋め戻し土の掘削を行い、状況の再確認を行っている。

〔規模・形状〕　25SD2は既往調査区も含め確認できた延長は22m、80SD1は途中で途切れる部分があるものの、確認できた延長31.4m、80SA4は既往調査区も含め延長10.35m、80SA2は延長17.95mである。南北側溝ともに西北西-東南東を向き直線状である。25SD2はN-69°-W、80SD1はN-65°-W、80SA4はN-70°-W、80SA2はN-68°-Wの傾きを持つ。南北側溝間の幅は両側溝が確認できる東端の芯芯で10m、西端の芯芯で8.3mである。南側側溝が31-38グリッド周辺からやや北に振れるため、西側に向かうにつれ両側溝の幅が狭くなっている。各遺構の上幅は25SD2が2m前後、80SD1が0.46～1.71m、80SA4が0.1～0.38m、80SA2が0.3～0.59mである。堆積状況を確認した部分での深度は25SD2が0.62～0.63m、80SD1が0.33～0.54m、80SA4が0.23m、80SA2が0.45mである。溝断面形は確認箇所で様相が異なっており、断面A5-A6間の25SD2はV字状、断面B2-B3間の25SD2は逆台形状を呈し、A4-A5間の80SD1は造り替えもしくは浚渫が行われるものの、断面B1-B2間とともに逆台形状を呈する。

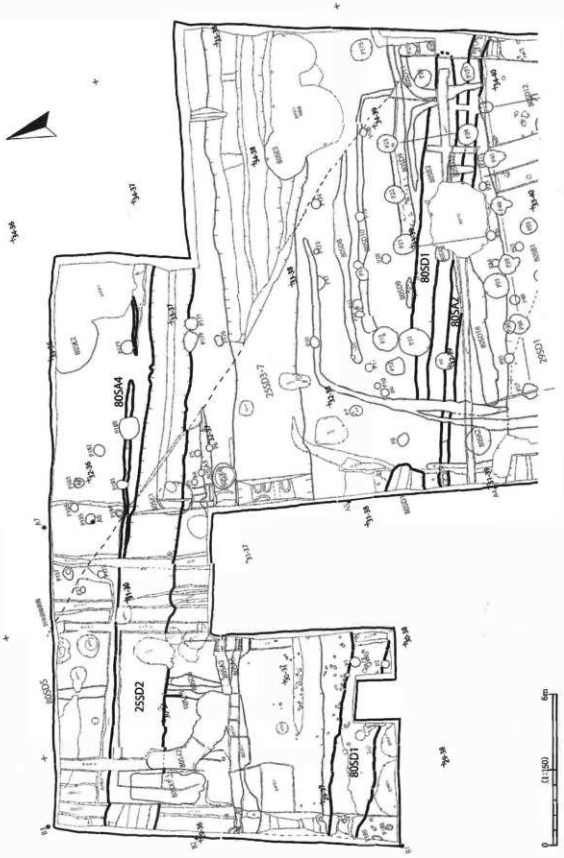
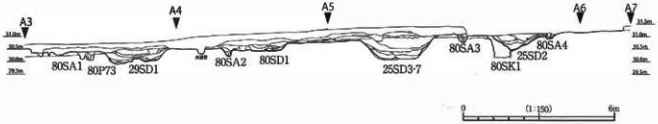
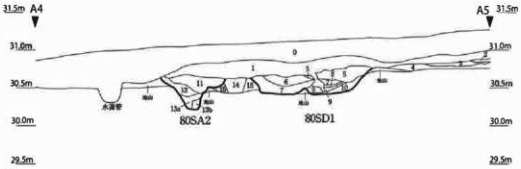


図12　80SC2 平面図





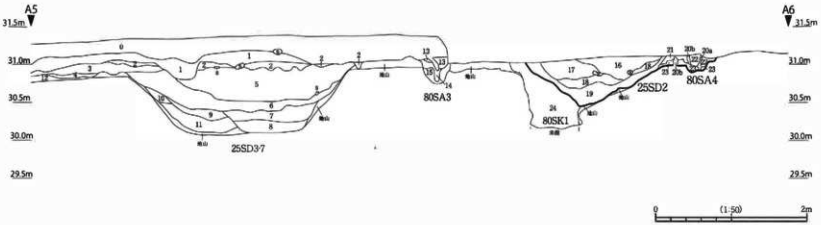


図13 80SC2 断面図1

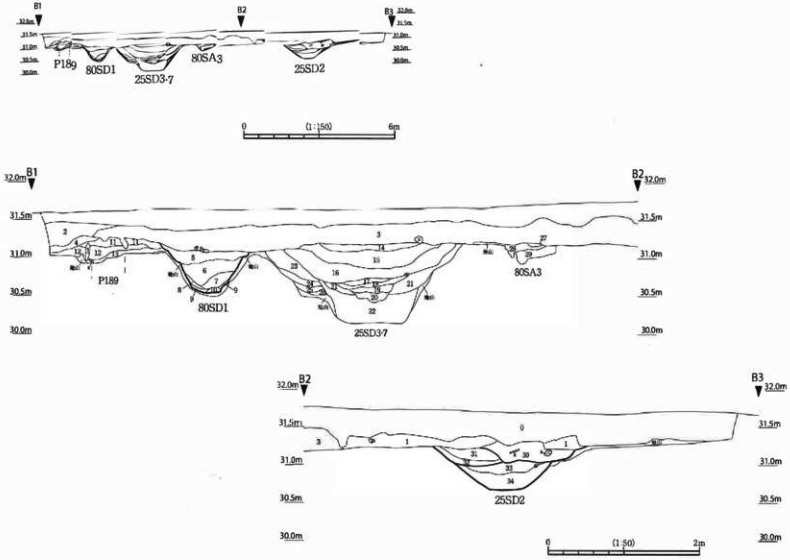


図14 80SC2 断面図2

【80SC2　断面A4-A5】5-10：80SD1　11-13b：80SA2

5.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	土器細粒微。
6.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	土器細粒極微。炭粒(径5mm)極微。地山黄色土ブロック(径10mm)微。5層に似るがやや黒味。
7.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径10-30mm)やや多。
8.	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	炭粒(径5mm)少。全体に黒味強。
9.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5mm)極微。地山黄色土ブロック(径10mm)少。
10.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径10-20mm)多。
11.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	地山黄色土ブロック(径20-30mm)やや多。7層によく似る。
12.	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性やや強	締まり中	4層に似る。
13a.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まりやや密	地山黄色土ブロック(径10-40mm)やや多。
13b.	10YR7/6-6/6	明黄褐色	粘土ブロック層	粘性やや強	締まり密	地山土ブロックによる埋め戻し層。

【80SC2　断面A5-A6】16-19：25SD2　20a-23：80SA4

16.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	土器細片微。炭粒(径5mm)極微。最深部に中砂ラミナ。拳大礫点在。
17.	10YR5/2-4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり密	土器細片微。炭粒(径5mm)極微。全体に酸化斑。拳大礫南縁に沿って点在。
18.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	炭粒(径2-5mm)極微。17層・19層に比して粘土質強くやや黒味帯びる。
19.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	土器細粒・炭粒(径5mm)微。(18層より混入目立つ)。
20a.	10YR5/1-5/2	褐灰-灰黄褐色	粘土	粘性やや強	締まり中	遺構底面の筋状痕から連続して立ち上がる土層。板材痕跡か。
20b.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	締まりやや密	炭粒(径2-5mm)極微。杭跡または根攪乱か。
21.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	粘性中	締まりやや密	地山黄色土ブロックやや多。
22.	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック多(21層に比してずっと多い)。
23.	10YR6/2-6/3	灰黄褐-にぶい黄橙色	粘土	粘性強	締まりやや密	10YR4/2灰黄褐色粘土小ブロック極微含む。地山土の再堆積層。

【80SC2　断面B1-B2】5-10：80SD1

5.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土	粘性やや強	締まりやや密	土器細片・炭粒(径5-10mm)極微。
6.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土	粘性中	締まり中	土器小片・炭粒(径10mm)少。5層に比して多く黒味帯びる。
7.	10YR5/4-6/6	にぶい黄褐-明黄褐色	粘土ブロック層	粘性やや強	締まりやや密	地山土崩落層。
8.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	シルト	粘性中	締まり中	地山土ブロック(径20-40mm)多。崩落層。
9.	10YR4/1-3/1	褐灰-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり中	炭粒(径5-10mm)極微。
10.	7層に同じ。					

【80SC2　断面B2-B3】30-34：25SD2

30.	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性やや強	締まりやや密	炭粒(径5-10mm)極々微。径20cm前後の礫僅かに含む。
31.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	シルト	粘性やや強	締まり中	土器細片微(目立つ)。
32.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性強	締まり中	土器細片少。炭粒(径5mm)微。31層に似るが黒味強い。
33.	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径20-30mm)を挟む水成層。炭粒(径5-10mm)極々微。
34.	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	締まり密	地山黄色土ブロック(径10mm)微。炭粒(径5-10mm)微。

表5　80SC2土層対応表

遺構名	層群	特徴等	断面A (A4-A5)	断面A (A5-A6)	断面 (B1-B2)	断面B (B2-B3)
—	—	礫面被覆層。	4	12	12-13	
80SD1	—	南側溝埋土。	5-10		5-10	
25SD2	—	北側溝最新期埋土。		16		30
25SD2	—	北側溝埋土。		17-19		31-34
80SA2	—	南側塀埋土。	11-13b			
80SA4	—	北側塀埋土。		20a-23		

〔埋土・堆積状況〕　本遺構の堆積状況については、遺構毎に堆積状況を観察した箇所別に記載する。

・25SD2（A5-A6：図13）

31-36グリッドで観察した。図の左側が猫間が淵側になる。A5-A6間の16～19層が本遺構の堆積土である。17～19層は微量の土器細片や炭粒の包含が確認できるものの、全体的に夾雑物が少なく、レンズ状の堆積状況を呈している。18層は斜面上方にあたる北側からの堆積した様相を呈している。16層は17層以下と不連続になっており、少なくとも新古の2時期が想定される。最終的な段階の溝幅は構築時の半分程と推察される。16層の最深部には中砂のラミナが確認でき、流水等の影響下で埋没が始まったものと想定される。17層の南縁及び16層には拳大の礫が点在している。

・25SD2（B2-B3：図14）

29-35グリッドの調査区際で観察した。図の左側が猫間が淵側になる。B2-B3間の30～34層が本遺構の堆積土である。33・34層はレンズ状の堆積状況を呈し、地山起源の黄色土ブロックが包含される。小規模な壁の崩落を伴いながら、埋没したものと想定される。31・32層は土器細片や炭粒が包含する等、A5-A6間の17～19層と類似する堆積土である。これらの堆積土を切るように30層が堆積している。30層はA5-A6間の16層に対応する層で、A5-A6間の様相と同様に、新古の2時期が想定される。

・80SD1（A4-A5：図13）

31-38グリッドで観察した。図の左側が猫間が淵側になる。A4-A5間の5～10層が本遺構の堆積土である。逆台形の底部が2重になっており、北側が古く、南側が新しい堆積土である。8～10層が北側に対応する堆積層である。8・9層の上端が5層に、9層の南端が7層によって切られているため、7層と8層を境に2群に分けられる。10層は底面から北側壁にかけて地山起源の黄色ブロック土を包含する堆積土が三角形状に堆積している。その上部の夾雑物の少ない8・9層がレンズ状に堆積している。これらの堆積土を切るように7層が堆積している。7層の堆積後の窪み状の部分を6層の堆積土が被覆している。6・7層の堆積土は8～10層の堆積土の関係と類似しており、繰り返し類似した状況での堆積状況を呈するものと想定される。最終的には土器細片を包含する5層によって被覆されている。

・80SD1（B1-B2：図14）

28-36・37グリッドの調査区際で観察した。図の左側が猫間が淵側になる。B1-B2間の5～10層が本遺構の堆積土である。下層には地山土や壁の崩落層（7・8・10層）が堆積し、土器小～細片や炭粒を含む堆積土（5・6層）で埋没している。最終的な埋没状況はA4-A5間と同様であるが、堆積層の不連続部分は確認できない。

・80SA4（A5-A6：図13）

31-36グリッドで観察した。図の左側が猫間が淵側になる。A5-A6間の20a～23層が本遺構の堆積土

である。下半には地山土の再堆積層（23層）が、上半には地山ブロックを多量に包含する灰黄褐色粘土もしくは粘土質シルト層（21・22層）が堆積し、これらを切るように、遺構底面から連続する３～５㎝幅の褐灰～灰黄褐色粘土層（20a層）が確認される。20a層は板材痕跡、21～23層は掘り方埋土と想定される。また、20b層は部分的に22層を貫く堆積土で杭跡の可能性が想定される。21・23層は25SD2の19層に切られており、本遺構構築後に側溝の構築を行ったものと推察される。

・80SA2（A4-A5：図13）

31-38グリッドで観察した。図の左側が猫間が淵側になる。A4-A5間の11～13b層が本遺構の堆積土である。最下層には、対となる80SA4と同じように地山土による埋め戻し層（13b層）や地山ブロックを多く包含する灰黄褐色粘土質シルト層（13a層）が確認できる。これらの堆積土をにぶい黄褐色砂質シルトが被覆し、最終的には80SD1のA4-A5間の７層と類似する地山起源の黄色土ブロックを包含する灰黄褐色粘土質シルトで埋没している。本遺構が完全に埋没するのが80SD1の新段階の埋没開始と同時期と想定される。

〔重複・先後関係〕　広範囲に及ぶ遺構であるため、プラン内には様々な遺構との関係が確認できるが、直接的に重複関係を把握できるもののみを記載する。80SE3・80SD4・80SD6・80SD7・80SD11・80SD12・80SD15・80SD17・80SD19・80SA5・80SX2・80SX3・80SX4・80SX6・80P4・80P6・80P33・80P35～42・80P49～56・80P58・80P59・80P64・80P66・80P70～73と重複し、80SD6・80P73を切り、この他の遺構に切られる。

〔出土遺物〕　図18・20　図版12・15

(4) 溝　跡

80SD2（図15・16）

〔位置・検出状況・精査方法〕　調査区南端の30-41～32-41グリッドで、概ね東西方向に走行し、30-41グリッドで直角に南に曲がるかわらけ片を包含する帯状の黒褐色から暗褐色土範囲として検出した。検出面は後世の宅地造成や開田に伴う削平された地山面である。30-41グリッドより南側の延伸を確認するために、延伸すると想定された30-43グリッド周辺を拡張した。直角に折れ曲がっている30-41グリッド周辺が本遺構では最も標高が高い。30-41グリッドから東に走行し、32-41グリッドで確認できなくなっている。一方、30-41グリッドから南にも走行し、調査区外へ延びている。精査は30-42グリッドの南端付近のみをトレンチ状に掘削し、その他の部分は検出にとどめた。

〔規模・形状〕　32-41グリッドから30-41グリッドの走行方向は東西方向で、上幅の中央付近で計測すると、N-77°-Wになる。本遺構は30-41グリッドで南に折れ曲がり、30-44グリッドまでの走行方向はやや東に傾く南北方向で、N-14°-Eである。当該範囲で確認できた全長は23.3ｍである。30-42グリッド周辺での上幅は1.3ｍで、確認した深度は41㎝である。トレンチ状に堆積状況を確認した30-42グリッド南端付近では、幅60㎝程の平坦な底面から東壁は直立気味に立ち上がり、上部で45°程に開いて立ち上がる。西壁は45°から50°で立ち上がっている。断面形状は逆台形状を呈する。標高に注目すると、30-41グリッド周辺が29.1～29.2ｍと最も高く、32-41グリッド周辺で28.9ｍ前後、30-44グリッド周辺で28.8ｍ前後となっている。

〔埋土・堆積状況〕　埋土の主体はかわらけ片や略完形個体を包含する黒褐色土である。かわらけは折り重なるように出土しており、人為堆積の可能性が高い。最下層は堆積当時の表土層と考えられる褐灰～灰黄褐色土が西側から流入した状況を呈している。最上部は基本層序Ⅱ層に相当する暗褐色土で被覆している。

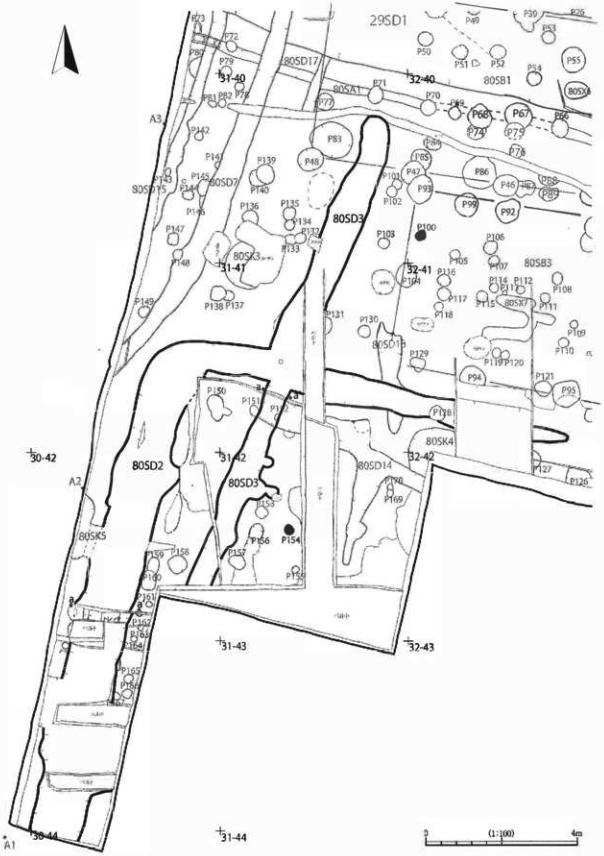


図15　80SD2・80SD3平面図

80SD2

【YG80SD2】(SP.a-a')

1　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　粘性やや強、締まりやや密。かわらけ細片(径10-20mm)多量。炭細片(径10mm)微量。

2　10YR3/1-3/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強、締まりやや密。かわらけ片多量。時完形個体を多く含み、折り重なって集中する。炭細片少量。

3　10YR4/1-4/2　褐灰-灰黄褐色　粘土　粘性強、締まりやや密。地山小ブロック微量。

4　10YR3/2　黒褐色　シルト　粘性中、締まり中。かわらけ細片(径10mm)極微量。

80SD3

【YG80SD3】(SP.a-a')

1　10YR3/1-3/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強、締まりやや密。かわらけ片多量。80SD2の2層に相当。本遺構埋土の上位を被覆している。

2　10YR4/1　褐灰色　粘土　粘性やや強、締まりやや密。

3　10YR4/1　褐灰色　粘土　粘性やや強、締まりやや密。地山小ブロック(径10mm)極微量。

図16　80SD2・80SD3断面図

埋土の主体をしめる黒褐色土は本遺構と重複関係にある80SD3の最上部を被覆する堆積層である。このことは、80SD3が機能しなくなり、大部分が埋没した段階で、本遺構の埋没が行われた状況を示しており、本遺構が80SD3よりも新しい遺構との根拠と考えられる。

〔重複・先後関係〕　80SK6、80SD3、80SD13、80P128、80P167と重複する。80SD3との重複箇所(31-41)では80SD3が不鮮明になることと、埋土の堆積状況から本遺構が新しい可能性が高い。この他、80SD13とP167を切り、P128に切られている。また、80SK6との関係は前述の通りである。

〔出土遺物〕　図20

80SD3（図15・16）

〔位置・検出状況・精査方法〕　31-40から31-41グリッドで南北方向に走行する帯状の褐灰色土範囲として検出した。検出面は後世の宅地造成や開田に伴う削平された地山面である。南側の延伸を確認するために、31-42グリッド周辺を拡張した。31-42グリッドでは80SD2と併走するように南走し、30-43グリッドで80SD2にぶつかり、その延伸が確認できなくなっている。精査は80SD2と交わる箇所の南側のみをトレンチ状に掘削し、その他の部分は検出にとどめた。

〔規模・形状〕　31-40グリッドから南走し、80SD2に合流するまでの全長は約19ｍである。走行方向は、上幅の中央付近で計測すると、N-21°-Eである。確認できた上幅で最大は１ｍで、深度を確認した部分では14cmである。トレンチ状に堆積状況を確認した31-41グリッドでは幅50cm程の平坦な底面から東壁は直立気味に、西壁は45°程の角度でなだらかに立ち上がる。断面形状は逆台形状を呈する。31-40グリッドが最も高く29.4ｍ前後で、80SD2とぶつかる30-43グリッドでは28.8ｍで、猫間が淵に向かって傾斜している。

〔埋土・堆積状況〕　埋土の主体は褐灰色土である。大部分はこの堆積土で、地山ブロックの有無で上下層に分層した。全体的に夾雑物が少なく、西側からの流入した状況を勘案すると、自然堆積の可

能性が高いと推察される。これらの堆積土によりほぼ埋没し、浅く窪んだところに、80SD2の２層に相当する堆積土により完全に被覆されている。

〔重複・先後関係〕　80SD2、80SD14、P151、P152と重複する。80SD2との重複箇所（31-41）では不鮮明になることと、本遺構の１層と80SD2の２層との関係から本遺構が80SD2より古い可能性が高い。この他、80SD14とP151を切り、P152に切られている。

(5)　柱　　穴（附図）

柱穴を多数検出している。埋土の特徴から12世紀代のものの他、近世以降のものも多く混在しているものと推察される。80P21等掘立柱建物等を構成する可能性のあるものも含まれるが、確認した柱穴を一括して表で示す。

表6　柱穴一覧表

遺構	グリッド	規模径(cm)	遺構	グリッド	規模径(cm)	遺構	グリッド	規模径(cm)
P1	29·30·37	50×37	P65	33-40	32×32	P129	32-41	40×38
P2	29-37	32×31	P66	32-40	50×43	P130	31-41	33×32
P3	31-36	25×24	P67	32-40	74×(60)	P131	31-41	(43)×(17)
P4	31-36	26×25	P68	32-40	65×65	P132	31-40	32×27
P5	31-36	25×23	P69	32-40	32×30	P133	31-40	(31)×26
P6	31-36·37	28×28	P70	32-40	42×40	P134	31-40	28×26
P7	31-38	50×43	P71	31-40	49×39	P135	31-40	(37)×33
P8	31-38	53×46	P72	31-39	30×27	P136	31-40	43×(35)
P9	31-38	34×31	P73	30-39	(32)×(20)	P137	31-41	(31)×26
P10	32-38	24×24	P74	32-40	(45)×45	P138	30·31-41	40×39
P11	32-38	33×32	P75	32-40	50×(45)	P139	31-40	52×46
P12	32-38	74×69	P76	32-40	(32)×34	P140	31-40	(51)×(38)
P13	32-38	100×94	P77	31-40	49×44	P141	30·31-40	(20)×(11)
P14	32-38	37×26	P78	31-40	24×22	P142	30-40	25×23
P15	32-38	40×37	P79	31-39·40	36×29	P143	30-40	22×14
P16	32-38	44×36	P80	30-39·40	(52)×(26)	P144	30-40	30×25
P17	32-38	(57)×(31)	P81	30-40	24×16	P145	30-40	(44)×(27)
P18	32-38	52×49	P82	30·31-40	22×20	P146	30-40	(35)×(14)
P19	33-38	39×37	P83	31-40	112×92	P147	30-40	32×28
P20	32·33-38	37×35	P84	32-40	46×(30)	P148	30-40	30×26
P21	32·33·38·39	89×76	P85	32-40	54×(50)	P149	30-41	34×26
P22	33-38·39	80×68	P86	32-40	(91)×(86)	P150	30·31-41	70×54
P23	33-38·39	80×71	P87	32-40	(53)×45	P151	31-41	30×24
P24	33-39	87×78	P88	32-40	(55)×(21)	P152	31-41	(19)×(10)
P25	33-39	32×29	P89	32-40	53×40	P153	31-42	33×31
P26	32-39	36×36	P90	33-40	24×23	P154	31-42	26×24
P27	33-39	51×(40)	P91	32·33-40	63×62	P155	31-42	19×18
P28	34-39	73×58	P92	32-40	68×53	P156	31-42	44×37
P29	34-39	73×(50)	P93	31·32-40	77×65	P157	31-42	46×37
P30	34-39	(39)×(28)	P94	32-41	(69)×(58)	P158	30-42	52×49
P31	32-38	126×108	P95	32-41	72×67	P159	30-42	(44)×30
P32	31·32·38·39	76×67	P96	33-41	72×61	P160	30-42	52×37
P33	32-39	102×99	P97	33-40	33×33	P161	30-42	17×16
P34	32-39	30×(28)	P98	32·33-40	(50)×47	P162	30-42	(17)×(14)
P35	31-39	41×38	P99	32-40	62×60	P163	30-42	17×14
P36	32-39	52×48	P100	32-40	29×25	P164	30-42·43	18×17
P37	31-39	(63)×63	P101	31-40	29×(26)	P165	30-43	26×23
P38	32-39	(82)×79	P102	31-40	30×29	P166	30-43	29×25
P39	32-39	85×77	P103	31-40	30×28	P167	30-43	(21)×20
P40	33-39	85×73	P104	31·32-41	63×53	P168	30-43	19×17
P41	33-39	90×70	P105	32-40	26×25	P169	31-42	22×17
P42	33-39	57×41	P106	32-40	39×35	P170	31-42	(17)×16
P43	33-40	58×50	P107	32-40·41	31×27	P171	31-35	25×19
P44	33-40	51×45	P108	32-41	34×28	P172	31-35	32×30
P45	32·33-40	(51)×(25)	P109	32-41	21×20	P173	33-38	23×18
P46	32-40	67×57	P110	32-41	27×26	P174	33-38	39×37
P47	31·32-40	64×(62)	P111	32-41	28×26	P175	34-38·39	97×81
P48	31-40	68×59	P112	32-41	22×20	P176	32-37	45×30
P49	32-39	40×37	P113	32-41	12×12	P177	32-37	51×50
P50	32-39	40×37	P114	32-41	25×24	P178	32-37	82×(53)
P51	32-39	42×38	P115	32-41	29×29	P179	32-36	55×53
P52	32-39	44×37	P116	32-41	36×31	P180	32-36	90×81
P53	32-39	37×33	P117	32-41	36×35	P181	31-36	45×37
P54	32-39·40	37×36	P118	32-41	25×23	P182	32-36	47×43
P55	32-39	67×62	P119	32-41	27×24	P183	31·32-35	42×38
P56	33-40	78×75	P120	32-41	25×25	P184	31-36	37×27
P57	33-40	39×(35)	P121	32-41	46×41	P185	31-35	44×37
P58	33-40	85×83	P122	32-41	35×35	P186	31-35	(34)×31
P59	33·34-40	(56)×(34)	P123	32·33-41	22×19	P187	31-35	(55)×39
P60	34-40	44×42	P124	33-42	21×17	P188	28-37	28×23
P61	34-40	23×(16)	P125	33-42	38×23	P189	28-37	(44)×(19)
P62	33·34-41	(26)×25	P126	32-42	(79)×(35)	P190	33·34-38	33×30
P63	33-40·41	25×22	P127	32-41·42	(46)×(21)	P191	34-39	73×51
P64	33-40	45×40	P128	32-41	42×42			

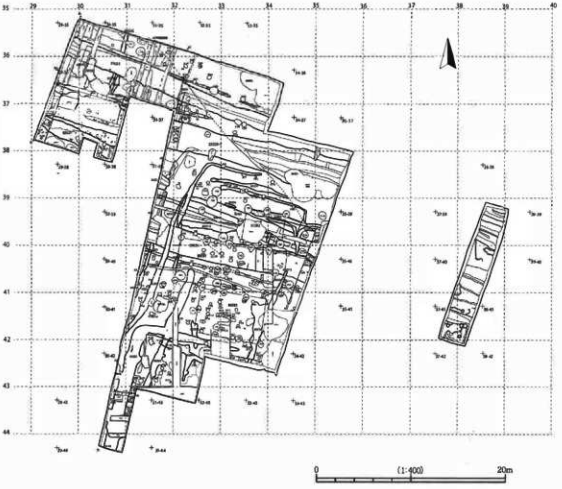


図17　遺構配置図旧グリッド表記（全体図）

3　出土遺物

(1)　遺物の重量

出土遺物は、総重量で770,916.4ｇで、内訳はかわらけ756,470.8ｇ（98.1％）、国産陶器が10,631.9ｇ（1.38％）、中国産磁器が952.2ｇ（0.12％）、その他2,861.5ｇ（0.4％）である。

(2)　グリッド

現在の調査区グリッドと異なる部分が生じている。表に記載されたグリッドは、図17に基づいて表記している。

(3)　遺物実測掲載基準について

原則全体の器形が把握出来るもの、遺構内出土のもの、径３×３㎝以上のもので特徴があるもの（油煙・打折れなど）を抽出して、実測掲載を行った。実測掲載点数は314点である。摩滅が著しいもの、出土地点が不明なものについては割愛した。

(4)　遺物観察表の表記について

肉眼による観察で混入物を確認できたものは、備考欄に「海綿骨針含む」というように記載した。また、産地・器種については、断定出来ないものを「常滑？」「四耳壺？」のように記載している。

(5)　遺構内出土遺物

25SD2（図18、図版12・15）

出土遺物の総重量は11,100.9ｇ、埋土・埋土最上部からの出土が大半を占める。１の手づくねかわらけが底面直上から出土している。かわらけはロクロ成形の２、国産陶器は、常滑産甕口縁部の12、押印が認められる９（平行条線文）・10（平行条線文？）・14（平行条線文？）・17（格子文）の甕類、13・16・20の片口鉢、中国産磁器は、21の白磁が出土している。

80SD1（図18、図版12・15）

出土遺物の総重量は1,752.2ｇ、25SD2と対になる道路側溝である。埋土から22・23の手づくねかわらけ、24の常滑産片口鉢が出土している。

25SD3・7（図18・19、図版12・15）

出土遺物の総重量は6,687.6ｇ、埋土・埋土最上部から出土している。口径が14㎝以上のロクロ成形のかわらけ25、国産陶器では、押印が認められる28・29（平行条線文）・30（縦長格子文）・31・32（平行条線文？）・62（縦長格子文）・63（格子文？）、須恵器系陶器波状四耳壺の38、中国産の白磁39・68が出土している。

29SD1（図19、図版12・15）

出土遺物の総重量は1,348.0ｇ、埋土からの出土である。かわらけは、ロクロ成形の40、口径11㎝以上の手づくね41～44、国産陶器では、押印が認められる47（平行条線文）・49（縦長格子文）、中

国産白磁の四耳壺54、白磁碗55が出土している。

80SD2（図20、図版12）

出土遺物の総重量は895.5ｇ、埋土からの出土である。ロクロ成形のかわらけ69、口径が11㎝以上の手づくね70～72、内折れ76などが出土している。

80SA2（図19・20、図版12・15）

出土遺物の総重量は580.7ｇ、埋土からの出土である。ロクロ成形のかわらけ77、常滑産甕45・51・78～80が出土している。

80SX3（図20、図版12）

出土遺物の総重量は259.0ｇ、埋土からの出土で、手づくねかわらけ１点が出土している。

80SK1（図20、図版15）

出土遺物の総重量は61.4ｇ、埋土からの出土である。常滑産甕82・83が出土している。

(6) 遺構外出土遺物

調査区北側より低い南側の区域を中心に大量のかわらけが出土する遺物包含層が確認された。遺物包含層の出土層位は、基本土層のⅡ層（暗褐色土）、Ⅲ層（黒褐色土）に相当する。出土したかわらけは、検出時及び埋土上部の掘削時に出土するかわらけ片（摩滅が著しい径２×２㎝の細片）と異なり、著しい摩滅は認められず、接合により全体の器形が把握出来るものが多かった。

遺物包含層の性格は、出土状況（大量のかわらけが重なるように出土）・出土遺物の状態（著しい摩滅が認められない）から一括廃棄された包含層と思われる。包含層の遺物の取り上げは、暗褐色包含層（包含層上位）・暗褐色包含層～黒褐色包含層（包含層中位）・黒褐色包含層（包含層下位）の三つに細分して行った。包含層の層位ごとの重量は、暗褐色包含層76,311.8ｇ、暗褐色～黒褐色包含層539,589.7ｇ、黒褐色包含層50,597.1ｇである。

暗褐色包含層から出土したかわらけは、150・155～157・164・165・168・214・227・279～282、暗褐色包含層～黒褐色包含層から出土したかわらけは148・149・151～154・166・192～197・199・205～208・219～226・228・229・236～240・242～245・270～278・283・284・286・287・291～300、黒褐色包含層から出土したかわらけは190・241・250～261である。

陶磁器については、小破片で全体の器形を推測しかねるものが大半である。暗褐色包含層（包含層上位）出土陶磁器は、99・103・111・112・115・117・122・158・160・172・173・210・215～217・231・235・285・301の渥美・常滑産陶器、162・163・212・213・289・290の中国産磁器である。

暗褐色土～黒褐色土(包含層中位)出土陶磁器は、159・161・200・218・230・232・233・246～248・301が渥美産・常滑産陶器、247・248が須恵器系陶器、209・234・288・302が中国産磁器である。

黒褐色包含層（包含層下位）で出土した陶磁器は、262（渥美産）・266（常滑産）・249は中国龍泉窯産、267・268が中国産磁器である。

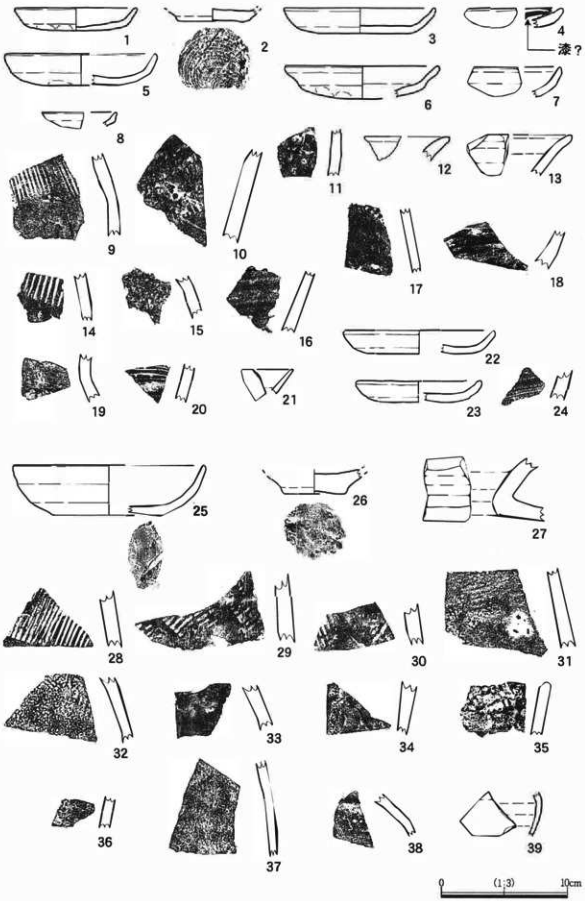

1
2
3
4
漆？
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
0
(1:3)
10cm

図18　出土遺物（1）

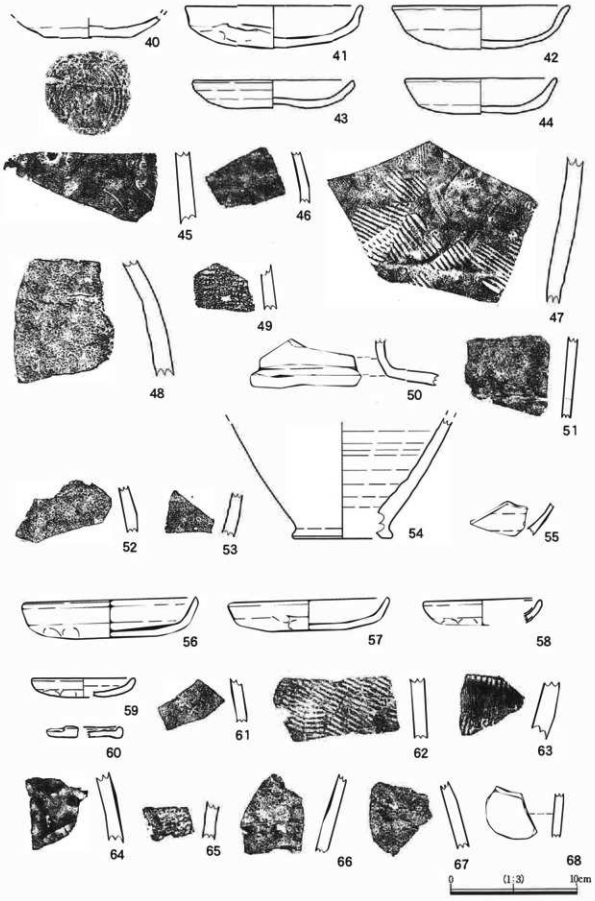

40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
0
(1:3)
10cm

図19　出土遺物（2）

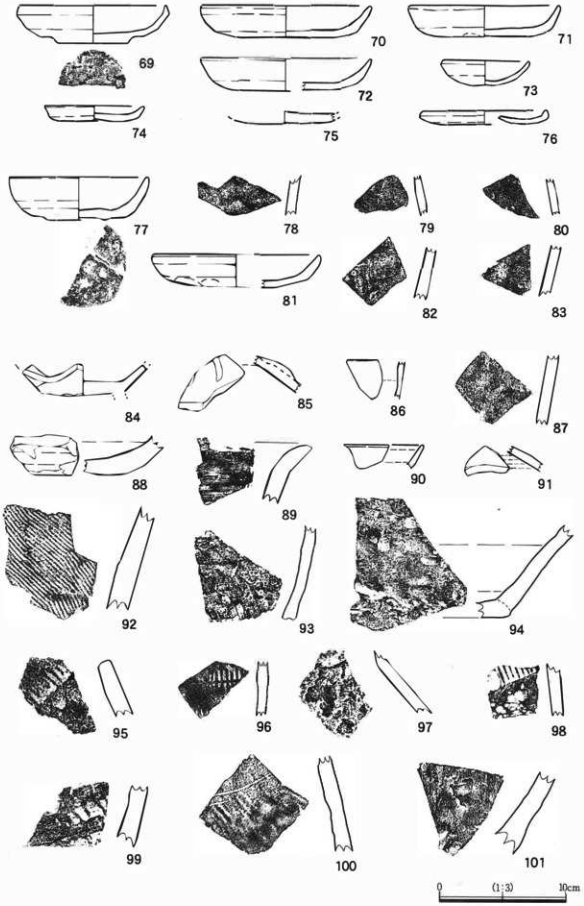

69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
0
(1:3)
10cm

図20　出土遺物（3）

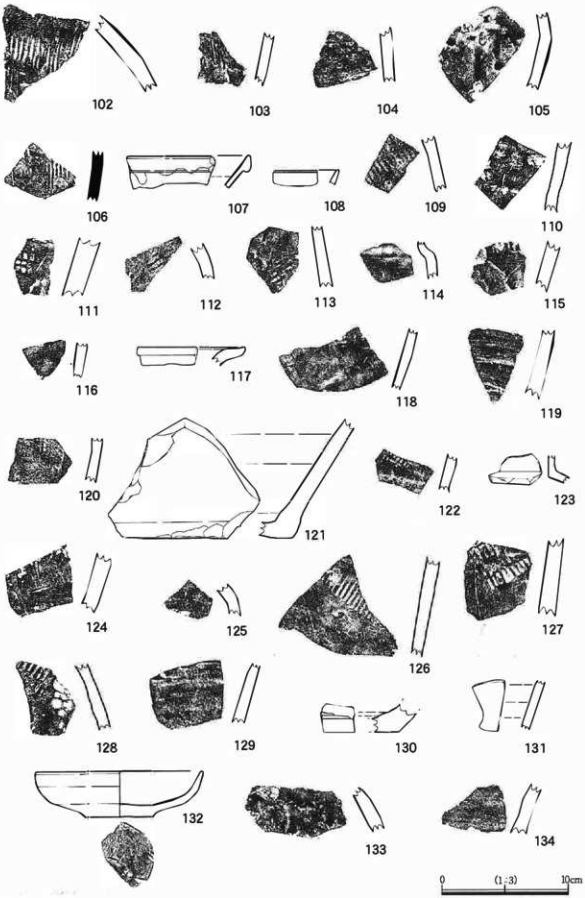

102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
0
(1:3)
10cm

図21 出土遺物（4）

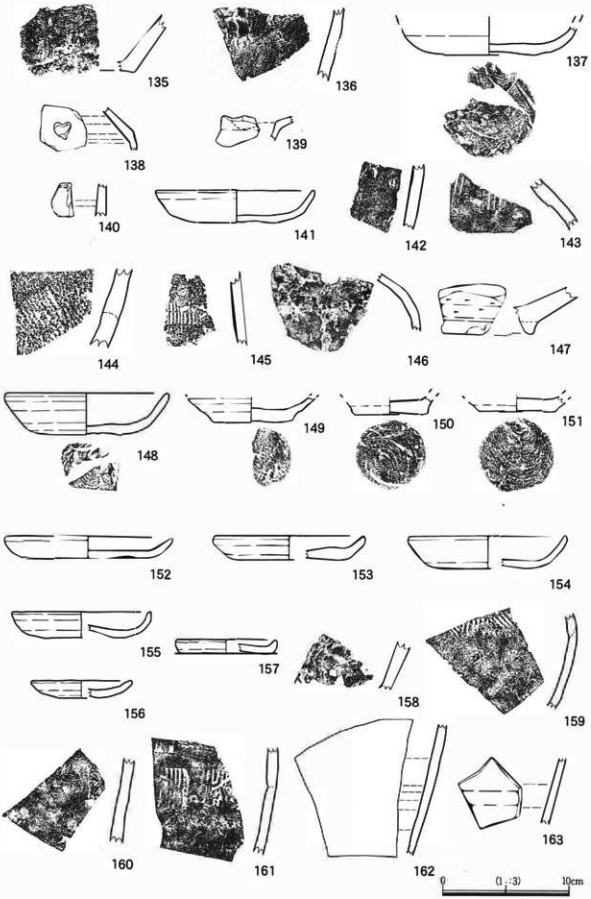

135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
0
(1:3)
10cm

図22　出土遺物（5）

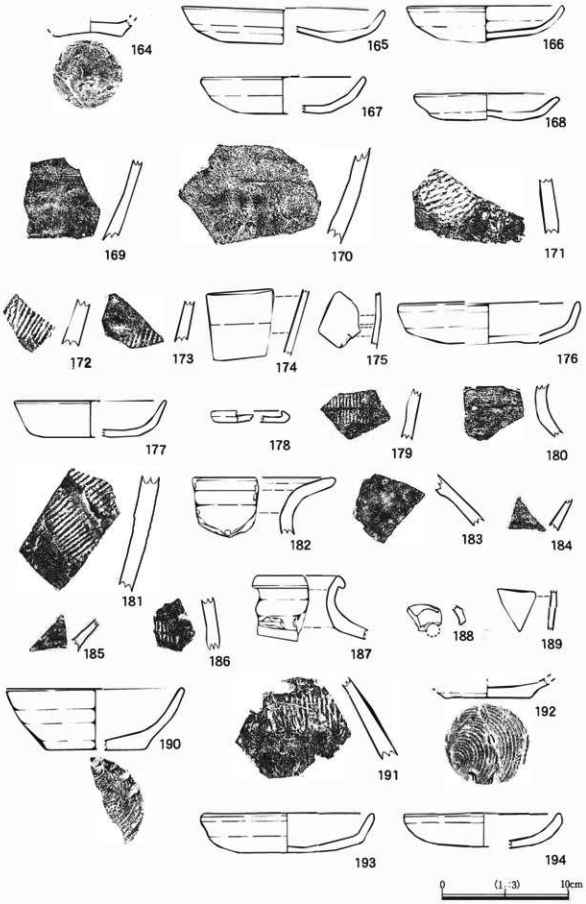

164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
0
(1:3)
10cm

図23 出土遺物（6）

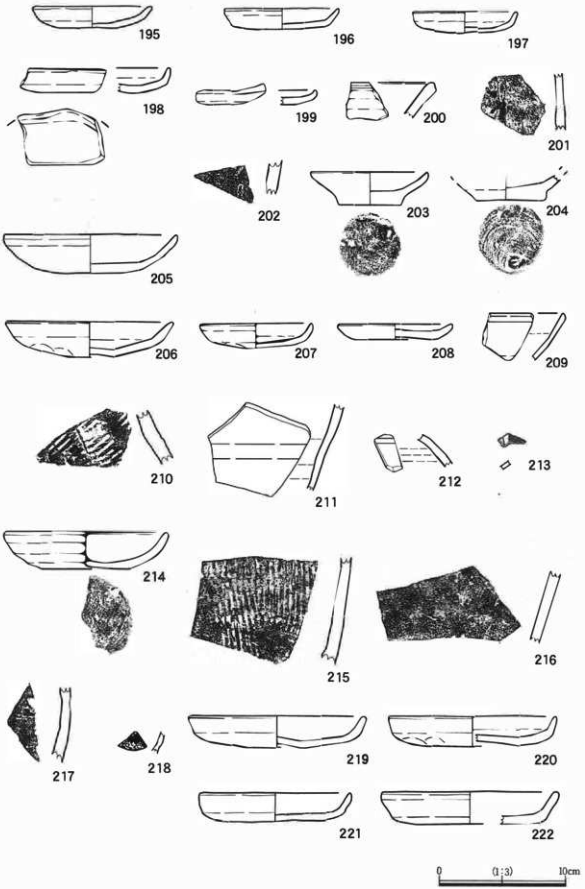

195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
0
(1:3)
10cm

図24　出土遺物（7）

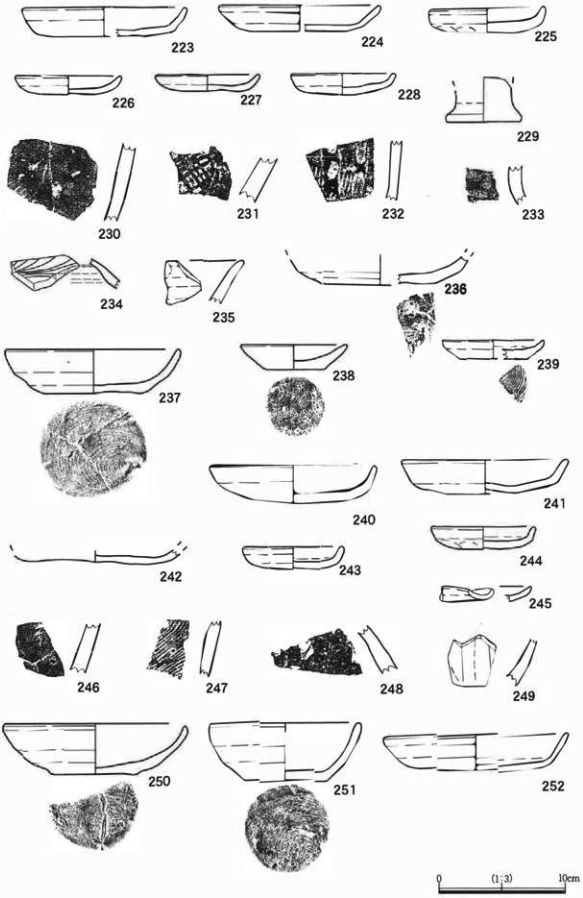

223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
0
(1:3)
10cm

図25 出土遺物（8）

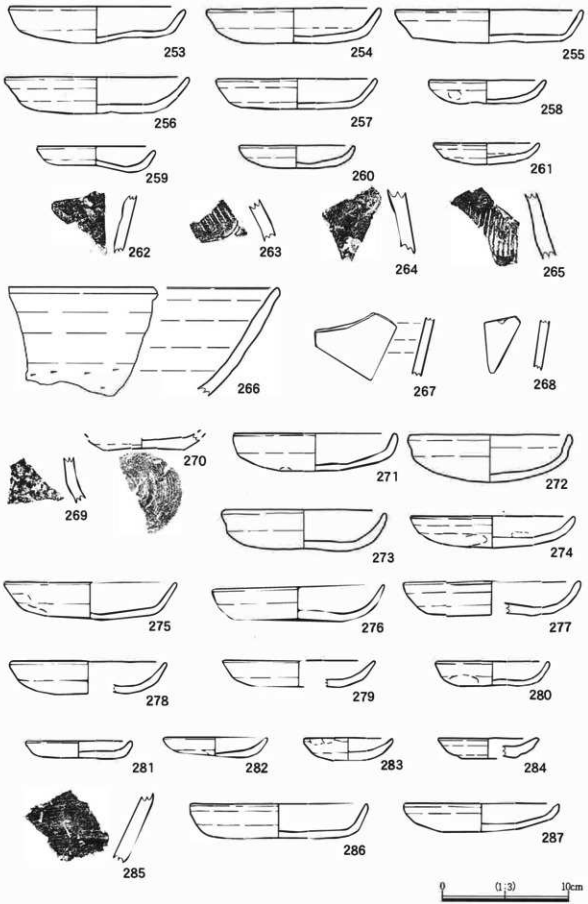

253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
0
(1:3)
10cm

図26　出土遺物（9）

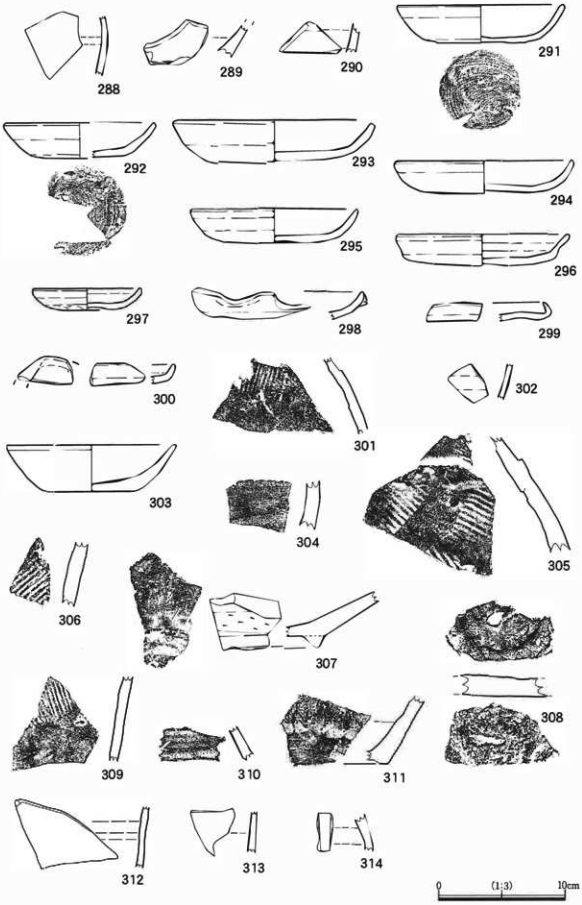

288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
0
(1:3)
10cm

図27　出土遺物（10）

表７－１　遺物観察表（かわらけ）

挿載番号	器種名	出土遺構	層位	口径	器高	底径	重量(g)	残存率(%)	色調	備考	登録番号
1	手づくね	25SD2	底面直上	(9.4)	1.8	-	34.2	80	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針・金雲母含む	80ROk9
2	ロクロ	25SD2(30-36)	埋土最上部	-	1.0	5.7	46.4	50	10YR7/4にぶい黄橙	海綿骨針・雲母含む	80ROk3
3	手づくね	25SD2	埋土	(11.8)	2.0	-	28.2	40	2.5Y8/2灰白		80ROk1
4	手づくね	25SD2(32-36)	埋土	-	(1.5)	-	8.2	30	10YR8/3浅黄橙	雲母含む・内面瘤付き？・摩滅著しい	80ROk7
5	手づくね	25SD2(30-36)	埋土最上部	(12.0)	2.5	-	27.9	20	内7.5YR7/6橙 外7.5YR8/6浅黄橙		80ROk6
6	手づくね	25SD2(30-36)	埋土最上部	(11.8)	(2.6)	-	20.9	30	10YR8/3浅黄橙	スノコ痕	80ROk4
7	手づくね	25SD2(32-36)	埋土	-	(2.3)	-	7.2	20	2.5Y8/2灰白	雲母含む	80ROk8
8	手づくね	25SD2(30-36)	埋土最上部	-	(1.3)	-	2.2	30	2.5Y8/1灰黄	雲母含む	80ROk5
22	手づくね	80SD1	埋土	(12.8)	1.6	-	17.3	30	10YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk30
23	手づくね	80SD1	埋土	9.8	1.7	-	14.2	10	10YR8/4浅黄橙	海綿骨針含む	80ROk29
25	ロクロ	25SD3・7 (30-36)	埋土最上部	(14.8)	4.0	8.5	33.2	20	10YR8/2灰白	海綿骨針・金雲母含む	80ROk16
26	ロクロ	25SD3・7 (29・30-37)	埋土最上部	-	(1.9)	(4.6)	74.0	60	2.5YR6/6橙	海綿骨針・雲母含む・摩滅著しい	80ROk15
40	ロクロ	29SD1(34-40)	埋土	-	(1.6)	6.8	85.3	60	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針・雲母含む・スノコ痕・摩滅著しい	80ROk17
41	手づくね	29SD1(34-40)	埋土	(13.8)	3.5	-	104.5	40	2.5Y8/1灰白	雲母含む	80ROk18
42	手づくね	29SD1	埋土	(13.9)	3.4	-	118.2	40	7.5YR6/6橙	海綿骨針・雲母含む	80ROk110
43	手づくね	29SD1	埋土	(12.6)	2.2	-	53.8	20	10YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk133
44	手づくね	29SD1	埋土	(11.8)	2.8	-	50.0	40	7.5YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk111
56	手づくね	25SD3延長部 (29-36・29-37)	埋土	(13.6)	3.0	-	94.9	50	2.5YR8/3浅黄	海綿骨針・雲母含む・スノコ痕	80ROk10
57	手づくね	25SD3延長部 (29-36・29-37)	埋土	(12.4)	2.7	-	76.6	45	2.5Y8/3浅黄	海綿骨針・雲母含む	80ROk14
58	手づくね	25SD3延長部 (29-36・29-37)	埋土下部	(9.0)	(1.8)	-	17.5	40	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針・雲母含む	80ROk13
59	手づくね	25SD3延長部 (29-36・29-37)	埋土	(8.0)	1.5	-	12.7	40	2.5Y7/3浅黄	雲母含む	80ROk11
60	内折れ	25SD3延長部 (29-36・29-37)	埋土	-	0.8	-	5.3	20	5Y7/2灰白	海綿骨針・雲母含む・スノコ痕	80ROk12
69	ロクロ	80SD2	埋土	(11.5)	2.0	5.6	41.0	50	10YR8/4浅黄橙	雲母含む	80ROk27
70	手づくね	80SD2	埋土	13.3	2.6	-	108.8	55	2.5Y8/3浅黄	雲母含む・スノコ痕	80ROk26
71	手づくね	80SD2	埋土	(11.6)	2.5	-	62.9	40	2.5Y8/3浅黄	海綿骨針・雲母含む	80ROk24
72	手づくね	80SD2	埋土	(13.8)	2.6	-	79.5	45	2.5Y8/3浅黄	海綿骨針・雲母含む	80ROk23
73	手づくね	80SD2	埋土	6.7	2.0	-	33.4	80	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針・雲母含む	80ROk22
74	手づくね	80SD2	埋土	(7.8)	1.2	-	25.7	50	10YR6/2灰黄褐	海綿骨針・雲母含む	80ROk25
75	ロクロ	80SD2	埋土	-	(0.9)	(4.0)	24.0	30	10YR7/4にぶい黄橙	土製円盤？・海綿骨針・雲母含む	80ROk20
76	内折れ	80SD2	埋土	(9.7)	1.1	-	16.3	20	10YR7/2にぶい黄橙	海綿骨針含む	80ROk21
77	ロクロ	80SA2	埋土	(10.8)	3.4	(5.0)	90.4	50	7.5YR7/6橙	海綿骨針・雲母含む・摩滅著しい	80ROk19
81	手づくね	80SX3	埋土一括	(13.0)	2.6	+	19.1	30	2.5Y8/3浅黄	スノコ痕	80ROk28
132	ロクロ	33-37	撹乱	(13.1)	3.6	(5.4)	64.2	30	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針含む・スノコ痕	80ROk108
137	ロクロ	32-39	検出面	-	(2.2)	(7.0)	63.5	40	7.5YR8/3浅黄橙	雲母含む・スノコ痕	80ROk77
141	手づくね	33-39	撹乱	12.4	2.6	-	80.0	40	2.5Y8/2灰白	海綿骨針・金雲母含む	80ROk109
148	ロクロ	32-40　北半	暗褐色～黒褐色包含層	(12.6)	3.3	(5.5)	120.2	30	5Y8/4淡橙	スノコ痕	80ROk82
149	ロクロ	32-40	暗褐色～黒褐色包含層	-	(2.1)	(6.2)	27.8	40	10YR8/3浅黄橙	摩滅著しい	80ROk88
150	ロクロ	32-40	暗褐色包含層	-	(1.0)	5.8	48.5	40	2.5Y8/3浅黄	金雲母含む	80ROk84
151	ロクロ	32-40　北半	暗褐色包含層	-	(1.1)	6.0	49.6	40	10YR7/4にぶい黄橙	雲母含む	80ROk78
152	手づくね	32-40　北半	暗褐色～黒褐色包含層	(13.1)	1.8	-	47.5	30	2.5Y8/3浅黄	海綿骨針・雲母含む	80ROk80
153	手づくね	32-40　北半	暗褐色～黒褐色包含層	(11.8)	1.9	-	42.1	40	10YR8/2灰白	海綿骨針・雲母含む	80ROk79
154	手づくね	32-40　北半	暗褐色～黒褐色包含層	(12.3)	2.6	-	35.8	30	7.5YR8/4浅黄橙	海綿骨針・雲母含む	80ROk81
155	手づくね	32-40	暗褐色包含層	(10.8)	2.1	-	27.3	20	7.5YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk83
156	手づくね	32-40	暗褐色包含層	(7.8)	1.4	-	14.7	20	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針・雲母含む	80ROk106

表７－２　遺物観察表（かわらけ）

遺物番号	器種名	出土遺構	層位	口径	器高	底径	重量(g)	残存率(%)	色調	備考	登録番号
157	手づくね	32-40	暗褐色包含層	(7.8)	1.1	－	9.9	30	2.5Y7/2灰黄	金雲母含む	80ROk107
164	ロクロ	33-40	暗褐色包含層	－	(1.3)	(5.5)	29.6	30	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針・雲母含む	80ROk113
165	手づくね	33-40	暗褐色包含層	(15.6)	2.7	－	66.7	40	2.5YR/3浅黄	雲母含む	80ROk87
166	手づくね	33-40	暗褐色～黒褐色包含層	(12.0)	2.9	－	104.4	60	2.5Y7/3浅黄	金雲母含む	80ROk114
167	手づくね	33-40	検出面	(12.6)	2.9	－	49.4	40	7.5YR8/3浅黄橙	金雲母含む	80ROk112
168	手づくね	33-40	暗褐色包含層	(11.2)	2.1	－	40.9	30	10YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk86
176	手づくね	34-40	検出面	(14.2)	3.3	－	107.8	40	10YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk132
177	手づくね	34-40	黒褐色包含層	(11.9)	2.9	－	41.2	30	7.5YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk129
178	内折れ	34-40	検出面	－	0.9	－	5.3	80	10YR7/4にぶい黄橙	金雲母含む	80ROk131
190	ロクロ	34-40	黒褐色包含層	(13.7)	4.8	(7.7)	84.3	40	7.5YR8/3浅黄橙	雲母含む・スノコ痕	80ROk130
192	ロクロ	31-41	暗褐色～黒褐色包含層	－	(8.0)	6.6	58.2	40	2.5Y8/2灰白	雲母含む	80ROk61
193	手づくね	33-41	暗褐色～黒褐色包含層	13.5	3.1	－	147.7	80	10YR8/2灰白	金雲母含む	80ROk115
194	手づくね	31-41	暗褐色～黒褐色包含層	12.2	2.6	－	87.9	70	2.5Y8/2灰白	雲母含む	80ROk60
195	手づくね	31-41	暗褐色～黒褐色包含層	9.2	1.7	－	48.2	90	7.5YR8/4浅黄橙	海綿骨針・金雲母含む	80ROk58
196	手づくね	30-40-41	暗褐色～黒褐色包含層	9.0	1.7	－	56.0	90	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針・金雲母含む	80ROk135
197	手づくね	31-41	暗褐色～黒褐色包含層	8.1	1.7	－	46.5	90	2.5Y7/3浅黄	擦付者？・海綿骨針・雲母含む・スノコ痕	80ROk59
198	手づくね	31-41	検出面	－	2.0	－	26.6	30	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・金雲母含む・スノコ痕	80ROk53
199	手づくね	31-41	暗褐色～黒褐色包含層	－	1.1	－	10.4	20	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・金雲母含む	80ROk62
203	ロクロ	32-41	検出面	4.9	2.6	4.8	74.8	100	7.5YR7/4にぶい橙	海綿骨針・金雲母含む・完形品	80ROk94
204	ロクロ	32-41	検出面	－	(2.2)	5.5	60.4	30	10YR8/3浅黄橙	雲母含む・摩滅著しい	80ROk93
205	手づくね	32-41	暗褐色～黒褐色包含層	(13.6)	3.1	－	116.9	60	2.5Y8/2灰白	雲母含む	80ROk92
206	手づくね	32-41	暗褐色～黒褐色包含層	(13.0)	2.8	－	97.9	50	10YR8/2灰白	雲母含む	80ROk91
207	手づくね	32-41	暗褐色～黒褐色包含層	8.8	2.0	－	56.1	90	10YR8/4浅黄橙	海綿骨針・金雲母含む・スノコ痕	80ROk89
208	ロクロ	32-41	暗褐色～黒褐色包含層	(8.6)	1.2	(6.0)	33.4	50	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・雲母含む・内面擦付者	80ROk90
214	ロクロ	30-42	暗褐色包含層	(12.8)	3.0	(7.0)	52.7	30	7.5YR7/4にぶい橙	海綿骨針・雲母含む・摩滅著しい	80ROk31
219	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	(13.6)	2.5	－	68.3	40	10YR8/3浅黄橙	雲母含む	80ROk64
220	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	(13.0)	2.3	－	90.8	50	2.5Y7/2灰黄	金雲母含む	80ROk71
221	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	11.8	2.3	－	111.6	90	2.5Y8/4浅黄	金雲母含む・スノコ痕	80ROk65
222	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	(13.7)	2.6	－	56.5	30	2.5Y8/2灰白	雲母含む	80ROk67
223	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	(12.7)	2.3	－	67.6	40	2.5Y8/4浅黄	金雲母含む	80ROk72
224	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	(12.6)	2.1	－	50.4	40	2.5Y8/3浅黄	海綿骨針・雲母含む	80ROk73
225	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	9.0	2.1	－	109.0	90	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・金雲母含む・スノコ痕・完形品	80ROk69
226	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	(8.0)	1.5	－	30.7	50	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・金雲母含む	80ROk68
227	手づくね	31-42	暗褐色包含層	8.1	1.3	－	38.7	90	10YR7/2にぶい黄橙	雲母含む	80ROk66
228	手づくね	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	8.1	1.7	－	52.0	80	2.5Y7/2灰黄	金雲母含む	80ROk74
229	柱状高台	31-42	暗褐色～黒褐色包含層	－	(3.5)	(3.0)	40.3	40	2.5Y7/3浅黄	雲母含む・スノコ痕	80ROk70
236	ロクロ	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	－	2.0	9.0	44.9	20	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針・雲母含む	80ROk104
237	ロクロ	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	13.5	3.5	8.0	172.4	90	10YR8/4浅黄橙	金雲母含む	80ROk99
238	ロクロ	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	8.3	2.0	4.5	66.1	100	2.5Y7/2灰黄	金雲母含む・完形品	80ROk101
239	ロクロ	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	(7.8)	1.5	(5.2)	11.4	30	10YR7/4にぶい黄橙		80ROk105
240	手づくね	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	13.0	2.0	－	174.7	98	2.5Y8/3浅黄	金雲母含む・スノコ痕	80ROk102
241	手づくね	32-42	黒褐色包含層	12.9	2.7	－	203.4	100	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針・金雲母含む・完形品	80ROk95
242	手づくね	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	－	(1.1)	－	92.2	20	10YR7/2にぶい黄橙	海綿骨針？・金雲母含む	80ROk97
243	手づくね	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	7.6	1.8	－	65.5	100	2.5Y7/3浅黄	雲母含む・完形品	80ROk103

表７－３　遺物観察表（かわらけ）

図版番号	器種名	出土遺構	層位	口径	器高	底径	重量（g）	残存率（%）	色調	備考	登録番号
244	手づくね	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	8.0	1.8	－	69.3	100	2.5Y7/3浅黄	完形品	80Rck96
245	手づくね	32-42	暗褐色～黒褐色包含層	－	1.2	－	6.4	20	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・金雲母含む	80Rck98
250	ロクロ	33-42	黒褐色包含層	14.2	4.0	6.8	179.6	60	7.5YR7/6橙	海綿骨針・雲母含む・摩滅著しい。	80Rck123
251	ロクロ	33-42	黒褐色包含層	(11.8)	4.6	(6.6)	96.9	40	7.5YR8/6橙黄橙	海綿骨針・金雲母含む・摩滅著しい。	80Rck127
252	手づくね	33-42	黒褐色包含層	14.2	2.9	－	158.2	90	2.5Y8/3浅黄	雲母含む	80Rck120
253	手づくね	33-42	黒褐色包含層	13.8	3.0	－	172.1	95	10YR8/2灰白	金雲母含む	80Rck118
254	手づくね	33-42	黒褐色包含層	13.5	2.8	－	181.6	90	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・金雲母含む	80Rck121
255	手づくね	33-42	黒褐色包含層	14.7	2.7	－	128.4	60	10YR7/2にぶい黄橙	海綿骨針・雲母含む	80Rck122
256	手づくね	33-42	黒褐色包含層	14.4	2.9	－	190.5	70	2.5Y8/2灰白	雲母含む	80Rck124
257	手づくね	33-42	黒褐色包含層	12.5	1.4	－	104.6	70	10YR8/3浅黄橙	雲母含む	80Rck126
258	手づくね	33-42	黒褐色包含層	9.1	1.9	－	70.4	95	10YR7/2にぶい黄橙	雲母含む	80Rck116
259	手づくね	33-42	黒褐色包含層	9.4	2.1	－	71.1	100	10YR7/2にぶい黄橙	海綿骨針・雲母含む・完形品	80Rck117
260	手づくね	33-42	黒褐色包含層	9.0	1.8	－	37.9	50	10YR8/3浅黄橙	金雲母含む	80Rck125
261	手づくね	33-42	黒褐色包含層	8.2	1.7	－	61.5	100	2.5Y7/3浅黄	海綿骨針・金雲母含む・完形品	80Rck119
270	ロクロ	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	－	(1.4)	6.2	48.8	40	7.5YR6/6橙黄橙	雲母含む	80Rck41
271	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(12.2)	3.0	－	120.3	45	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針・雲母含む・スノコ痕	80Rck38
272	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(12.5)	3.8	－	72.3	40	10YR8/3浅黄橙		80Rck44
273	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	12.5	3.3	－	151.9	95	10YR8/4浅黄橙	海綿骨針・雲母含む	80Rck43
274	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(12.8)	2.6	－	60.0	40	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針含む	80Rck42
275	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	13.4	3.0	－	145.0	90	10YR8/3浅黄橙		80Rck39
276	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(13.5)	2.8	－	99.1	50	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針・雲母含む・スノコ痕	80Rck46
277	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(13.8)	2.7	－	52.1	30	2.5Y8/2灰白	雲母含む	80Rck37
278	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(12.2)	2.6	－	39.2	30	10YR8/4浅黄橙	雲母含む	80Rck36
279	手づくね	30-43	暗褐色包含層	(11.8)	2.1	－	62.7	40	2.5Y7/2灰黄	海綿骨針・雲母含む	80Rck32
280	手づくね	30-43	暗褐色包含層	8.8	2.0	－	47.7	80	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針・金雲母含む	80Rck35
281	手づくね	30-43	暗褐色包含層	8.2	1.4	－	36.2	60	10YR7/3にぶい黄橙	海綿骨針・金雲母含む	80Rck33
282	手づくね	30-43	暗褐色包含層	8.0	1.6	－	53.3	98	10YR7/2にぶい黄橙	海綿骨針含む	80Rck34
283	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(6.9)	1.8	－	29.4	30	2.5Y8/2灰白	海綿骨針含む	80Rck45
284	手づくね	30-43	暗褐色～黒褐色包含層	(7.8)	1.6	－	11.6	40	10YR8/3浅黄橙		80Rck47
286	手づくね	31-43	暗褐色～黒褐色包含層	(13.8)	2.7	－	78.2	50	10YR8/4浅黄橙	雲母含む・底面すす付着？	80Rck76
287	手づくね	31-43	暗褐色～黒褐色包含層	12.2	2.2	－	77.0	50	10YR8/3浅黄橙	雲母含む	80Rck75
291	ロクロ	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	13.0	3.0	7.0	88.5	70	7.5YR7/6橙	海綿骨針・雲母含む	80Rck52
292	ロクロ	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	(11.8)	2.8	(7.4)	78.4	60	7.5Y7/6にぶい橙	海綿骨針含む	80Rck49
293	手づくね	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	15.5	3.4	－	196.4	80	10YR7/2にぶい黄橙	金雲母含む	80Rck48
294	手づくね	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	(13.8)	2.5	－	113.6	60	7.5YR8/4浅黄橙	海綿骨針・金雲母含む・スノコ痕	80Rck56
295	手づくね	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	(13.0)	2.7	－	84.2	50	2.5Y7/3浅黄	雲母含む	80Rck53
296	手づくね	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	13.4	2.5	－	156.5	90	10YR8/4浅黄橙	海綿骨針・金雲母含む・スノコ痕	80Rck55
297	手づくね	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	8.4	1.7	－	63.8	100	10YR7/2にぶい黄橙	海綿骨針含む・完形品	80Rck50
298	手づくね	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	－	(2.2)	－	19.5	20	10YR7/4にぶい黄橙	雲母含む・片口状？	80Rck57
299	内折れ	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	－	1.4	－	13.9	30	10YR8/3浅黄橙	スノコ痕	80Rck51
300	手づくね	30-44	暗褐色～黒褐色包含層	－	1.4	－	7.3	30	10YR8/3浅黄橙	雲母含む・内折れ	80Rck54
303	ロクロ	調査区内	一括	(13.3)	3.7	(6.8)	142.0	70	10YR8/3浅黄橙	海綿骨針・雲母含む・摩滅著しい。	80Rck134

表８－１ 遺物観察表（国産陶器）

掲載番号	産地	器種	部位	出土地点	層位	重量（g）	色調	備考	登録番号
9	瀬戸	壺	体部上半	25SD2(32-36)	埋土	56.0	表:2.5Y7/1灰白 裏:5YR6/1褐灰	押印(平行条線文)	80BOk249
10	瀬戸	壺	体部	25SD2(32-36)	埋土	76.1	N7/0灰白	押印(平行条線文？)	80BOk251
11	瀬戸	壺	体部	25SD2(32-36)	埋土	15.9	N6/1灰		80BOk247
12	常滑	壺	口縁部	25SD2(32-36)	埋土最下部	6.2	2.5GY7/1明オリーブ灰	内面に降灰釉	80BOk266
13	常滑	片口鉢	口縁部	25SD2(32-36)	埋土	14.5	表:7.5Y7/1灰白 裏:5Y7/1灰白	内面に降灰釉	80BOk250
14	瀬戸	壺	体部	25SD2(32-36)	埋土	20.7	表:N7/0灰白 裏:N6/0灰	押印(平行条線文？)・外面に降灰釉	80BOk248
15	常滑	壺	胴部	25SD2(30-36)	埋土最上部	22.9	表:7.5Y7/2灰黄 裏:10YR6/2灰黄褐	外面に降灰釉	80BOk225
16	常滑	片口鉢	体部	25SD2(32-36)	埋土	23.7	5Y7/1灰白		80BOk264
17	常滑？	壺	体部	25SD2(29-35)	埋土	24.7	表:N5/0灰 裏:N7/0灰白	押印(格子文)・薄手	80BOk173
18	常滑	片口鉢	体部	25SD2(29-35)	埋土	27.5	5Y7/1灰白		80BOk172
19	常滑	壺	頸部	25SD2(29-35)	埋土	20.2	表:5YR4/3にぶい赤褐 裏:5YR5/4にぶい赤褐	外面に降灰釉	80BOk171
20	常滑	片口鉢	体部	25SD2(30-36)	埋土最上部	10.9	表:2.5Y8/1灰白 裏:7.5Y7/2灰白	内面に降灰釉	80BOk226
24	常滑	片口鉢	体部	80SD1(29-37)	埋土最上部	10.4	5Y7/1灰白		80BOk216
27	瀬戸	壺	頸部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	58.0	N8/0灰白(胎土) 7.5YR5/3オリーブ黄(釉)	1b型式・EO17Jと同一個体？	80BOk260
28	瀬戸	壺	体部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	41.6	N7/0灰白	押印(平行条線文)	80BOk252
29	瀬戸	壺	体部上半	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	77.5	N7/0灰白	押印(平行条線文)	80BOk251
30	瀬戸	壺	体部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	31.9	表:N7/0灰白 裏:N6/1灰	押印(縦長格子文)・内面ハケ	80BOk255
31	瀬戸	壺	体部	25SD3・7 (29・30-37)	埋土最上部	82.1	表:10Y6/2オリーブ灰 裏:5Y7/1灰白	押印(平行条線文？)・外面に降灰釉	80BOk217
32	瀬戸	壺	体部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	48.8	表:10Y6/2オリーブ灰(釉) 裏:5Y7/1灰白	押印(平行条線文？)・外面に降灰釉	80BOk253
33	瀬戸	壺	体部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	35.3	表:7.5Y5/2灰オリーブ 裏:N6/1灰	外面に降灰釉	80BOk256
34	瀬戸	壺	体部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	21.5	表:N6/0灰(胎土)・7.5Y4/2暗オリーブ(釉) 裏:N7/0灰白	外面に降灰釉	80BOk258
35	瀬戸系	壺	体部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	33.9		押印？(格子状)	80BOk298
36	瀬戸系	壺	体部	25SD3・7 (29-36・37)	埋土	8.7	10YR8/4浅黄橙		80BOk211
37	常滑	壺	体部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	48.0	表:7.5YR4/1褐灰 裏:5YR5/3にぶい赤褐	外面に降灰釉	80BOk254
38	信楽都系	透状文四耳壺	胴部	25SD3・7 (32-37トレンチ)	埋土	12.3	表:5Y6/1灰 裏:N7/0灰白		80BOk259
45	瀬戸	壺	体部	80SA2	埋土	111.7	N5/0灰		80BOk246
46	瀬戸	壺	体部	29SD1延長部トレンチ(31-39)	埋土	26.4	表:2.5Y7/1灰白 裏:N6/1灰		80BOk207
47	瀬戸	壺	体部	29SD1(34-40)	埋土	373.5	N6/1灰	押印(平行条線文)	80BOk237
48	瀬戸	壺	胴部	29SD1延長部トレンチ(31-39)	埋土	165.0	表:7.5Y7/2灰白 裏:N6/1灰	外面に降灰釉	80BOk206
49	瀬戸	壺	体部	29SD1(34-40)	埋土	24.5	表:7.5Y5/2灰オリーブ(釉) 裏:5Y6/1灰	押印(縦長格子文)・外面に降灰釉	80BOk238
50	常滑	壺	頸部	29SD1(34-40)	埋土	79.7	表:10Y5/2オリーブ灰(釉) 裏:5Y5/1灰	2型式？・外面に降灰釉	80BOk165
51	常滑	壺	体部	80SA2	埋土	57.4	表:5YR5/1褐灰 裏:7.5YR5/2灰褐		80BOk245
52	常滑	壺	胴部	29SD1(34-40)	埋土	37.5	表:7.5Y6/1灰 裏:2.5Y5/1黄灰		80BOk162
53	信楽都系	壺	体部	29SD1(34-40)	埋土	16.0	N6/1灰		80BOk164
61	瀬戸	壺	体部	25SD3(29-36・37)	埋土	20.9	表:7.5Y8/1灰白 裏:N6/1灰		80BOk176
62	瀬戸	壺	体部	25SD3(29-36・37)	埋土	87.1	N6/1灰	押印(縦長格子文)	80BOk177
63	瀬戸	壺	体部	25SD3(29-36・37)	埋土	35.8	表:7.5Y7/1灰白 裏:10YR6/1褐灰	押印(格子文？)	80BOk175
64	瀬戸	壺	体部	25SD3(29-36・37)	埋土	43.3	表:7.5Y5/1灰 裏:N7/0灰白	押印・外面に降灰釉	80BOk181
65	瀬戸系	壺	体部	25SD3(29-36・37)	埋土	16.9	表:10Y8/6明黄褐 裏:2.5YR4/4赤黄		80BOk178
66	常滑	壺	体部	25SD3(29-36・37)	埋土	38.7	表:5YR5/3にぶい赤褐 裏:10YR5/3にぶい黄褐		80BOk182
67	常滑	壺	体部	25SD3(29-36・37)	埋土	37.6	表:7.5YR5/3にぶい褐 裏:N5/0灰		80BOk183
78	常滑	甲蓋	体部	80SA2	埋土	17.3	表:10YR7/3にぶい黄橙 裏:7.5YR6/2灰褐		80BOk241
79	常滑	壺	体部	80SA2	埋土	11.8	表:5Y7/2灰白 裏:7.5YR5/3にぶい褐		80BOk239
80	常滑	壺	体部	80SA2	埋土	9.7	表:7.5YR4/1褐灰 裏:7.5YR5/3にぶい褐		80BOk240
82	常滑	壺	体部	80SK1	埋土	25.0	表:5YR5/4にぶい赤褐 裏:7.5YR5/4にぶい褐		80BOk272
83	常滑	壺	体部	80SK1	埋土	16.2	表:5YR5/4にぶい赤褐 裏:7.5YR5/4にぶい褐	80Ok272と同一個体	80BOk271
87	常滑	壺	体部	30-35(T1)	一括	34.3	表:10Y8/2灰白 裏:2.5Y6/3にぶい黄		80BOk1
88	瀬戸	片口鉢	底部	29-36(T6)	一括	59.1	N7/0灰白		80BOk11
89	瀬戸	壺	頸部	30-36	検出面	53.5	表:2.5Y7/2灰黄 裏:10YR6/2灰黄褐		80BOk57

表８－２　遺物観察表（国産陶器）

図版番号	産地	器種	部位	出土地点	層位	重量（g）	色調	備考	登録番号
92	瑞恵窯系	壺	体部	31-36	カクラン	134.9	表:7.5Y5/1灰 裏:5Y7/1灰白	外面ケタキ	80ROx70
93	瀬美系	壺	体部	31-36	カクラン	60.5	10Y8/4浅黄橙		80ROx71
94	常滑	壺	底部	31-36	カクラン	152.1	表:2.5Y7/1灰白 裏:7.5YR/3オリーブ黄	内面に降灰釉	80ROx69
95	瀬美	壺	体部	31-36	検出面	57.9	表:2.5Y6/2灰黄 裏:N6/1灰	押印(平行条線文？)	80ROx63
96	瀬美	壺	体部	32-36	検出面	21.1	2.5Y7/1灰白	押印(縦長格子文)	80ROx192
97	常滑	壺	胴部	32-36	検出面	44.8	表:10Y5/2オリーブ灰(釉) 裏:7.5YR4/2灰褐	外面に降灰釉	80ROx83
98	瀬美	壺	体部	29-37	検出面	29.4	N6/1灰	押印(平行条線文)・内面ハジケ	80ROx185
99	瀬美	壺	体部	29-37	暗褐包含層	62.0	表:7.5YR/2 裏:N7/0灰白	押印(格子文？)	80ROx151
100	瀬美	壺	胴部	29-37	検出面	96.3	表:5Y5/4オリーブ(釉) 裏:5Y7/1灰白	押印(平行条線文)・外面に降灰釉	80ROx186
101	瀬美	壺	体部下半	29-37	検出面	81.6	表:7.5Y3/1褐灰 裏:10Y6/4オリーブ灰	内面に降灰釉	80ROx53
102	瀬美	壺	体部	29-37	検出面	81.1	表:10YR7/2にぶい黄橙 裏:2.5Y6/1黄灰	押印(平行条線文)	80ROx54
103	瀬美系	壺	体部	29-37	暗褐包含層	19.3	2.5YR/4赤黄		80ROx149
104	瀬美系	壺	体部	29-37	検出面	26.9	表:2.5Y7/3灰黄 裏:2.5YR4/4赤黄		80ROx31
105	常滑	壺	体部上半	29-37	検出面	58.0	表:10YR4/1褐灰(胎土)・7.5Y4/2灰オリーブ(釉) 裏:7.5YR4/1褐灰	外面に降灰釉	80ROx28
106	常滑	壺	体部	29-37	検出面	23.2	2.5Y6/3灰黄	押印(格子文)	80ROx160
109	瀬美	壺	体部	30-37	検出面	19.1	表:7.5Y7/2灰白 裏:5Y7/1灰白	押印(平行条線文？)・外面に降灰釉	80ROx40
110	瀬美	壺	体部	30-37	検出面	36.7	表:5Y7/1灰白 裏:N7/0灰白		80ROx45
111	瀬美	壺	体部	30-37	暗褐包含層	40.9	表:/5/0灰 裏:N7/0灰白	押印(格子文)	80ROx155
112	瀬美	壺	体部	30-37	暗褐包含層	17.6	表:7.5Y7/1灰白 裏:N7/0灰白	押印(縦長格子文？)・外面に降灰釉	80ROx156
113	瀬美	壺	体部	30-37	検出面	24.6	表:10YR6/1褐灰 裏:N7/0	押印(縦長格子文)	80ROx187
114	瀬美	短頸壺	頸部	30-37	検出面	13.1	表:N7/0灰白 裏:N6/0灰		80ROx41
115	瀬美	壺	体部	30-37	暗褐包含層	32.4	表:10Y6/1灰 裏:N7/0灰白	押印(平行条線文？)・内面ハジケ	80ROx154
116	瀬美？	鉢類	体部	30-37	検出面	10.5	表:7.5Y6/2灰白 裏:5Y8/1灰白		80ROx44
117	常滑	壺	口縁部	30-37	暗褐包含層	18.1	表:/5Y5/4オリーブ 裏:5Y4/2灰オリーブ	1～3割点 内外面に降灰釉	80ROx158
118	常滑	壺	体部	30-37	検出面	39.4	N5/0灰	薄手	80ROx60
119	常滑	片口鉢	体部	30-37	検出面	32.9	2.5YR/1灰白	内面に降灰釉	80ROx38
120	常滑	壺	体部	30-37	検出面	24.7	表:7.5YR5/2灰褐 裏:N5/0灰	押印(格子文)	80ROx59
121	常滑	壺	底部	30-37	検出面	226.1	表:10YR6/1褐灰 裏:2.5Y7/1灰白		80ROx37
122	常滑	壺	体部	30-37	暗褐包含層	16.9	表:/N4/0灰 裏:5Y6/1灰	押印(格子文？)	80ROx159
124	瀬美	壺	体部	32-37	検出面	45.9	表:2.5Y7/2灰黄 裏:5Y6/3オリーブ黄	押印、内面に降灰釉	80ROx93
125	常滑	壺	頸部	32-37	検出面	13.4	表:7.5YR4/4褐 裏:7.1Y8/3にぶい黄橙		80ROx91
126	瀬美	壺	体部	32-37	検出面	71.6	表:5Y6/1灰 裏:2.5Y7/1灰白	押印(平行条線文)	80ROx146
127	瀬美	壺	体部	32-37	検出面	66.0	表:5Y6/1灰 裏:N7/0灰白	押印(縦長格子文)	80ROx106
128	瀬美	壺	体部	32-37	検出面	34.5	N7/0灰白	押印(平行条線文？)・外面に降灰釉	80ROx105
129	常滑	片口鉢	体部	32-37	検出面	46.8	表:5Y7/1灰白 裏:7.5Y5/3オリーブ黄	内面に降灰釉	80ROx92
130	瑞恵窯系？	鉢類	底部	32-37	検出面	21.7	N6/1灰		80ROx36
133	常滑	壺	体部上半	32-38	検出面	52.7	表:5Y6/1灰 裏:2.5Y7/1灰白	外面に降灰釉	80ROx147
134	瀬美？	鉢？	体部	32-38	カクラン	32.7	表:N5/0灰 裏:7.5Y6/1灰		80ROx96
135	常滑	壺	底部	32-38	カクラン	69.9	表:2.5Y5/1黄灰 裏:7.5Y5/2灰オリーブ	内面に降灰釉	80ROx95
136	常滑	壺	体部	32-38	カクラン	49.2	表:N3/0暗灰・7.5Y5/3灰オリーブ(釉) 裏:7.5Y6/2灰オリーブ	内外面に降灰釉	80ROx98
142	瀬美	壺	体部	34-38(T3)	一括	29.8	N6/1灰		80ROx5
143	常滑	壺	体部	34-39	カクラン	39.4	表:10Y8/1褐灰 裏:2.5Y5/1黄灰	押印(平行条線文)・外面に降灰釉	80ROx143
144	瀬美	壺	体部	33-39	検出面	86.4	表:5Y7/2灰白 裏:10YR4/1灰白	押印(平行条線文？)	80ROx119
145	常滑	壺	体部	31-40	検出面	33.6	N4/0灰	押印(縦長格子文)	80ROx125
146	常滑	壺	体部上半	34-39	検出面	48.4	表:7.5Y5/3灰オリーブ 裏:5YR5/4にぶい赤褐	外面に降灰釉	80ROx148
147	常滑	片口鉢	底部	34-39	検出面	61.1	7.5Y7/1灰白		80ROx47
158	瀬美	壺	体部	32-40	暗褐包含層	30.4	表:N5/灰 裏:10YR4/1褐灰	内面に降灰釉	80ROx198
159	常滑	壺	体部	32-40	暗～黒褐包含層	64.0	表:2.5YR4/3にぶい赤褐 裏:5YR4/3にぶい赤褐	押印(平行条線文？)	80ROx267
160	常滑	壺	体部	32-40	暗褐包含層	61.5	表:10R3/6暗赤・10Y4/2オリーブ灰(釉) 裏:7.5YR4/1褐灰	外面に降灰釉	80ROx199

表８－３　遺物観察表（国産陶器）

掲載番号	産地	器種	部位	出土地点	層位	重量（g）	色調	備考	登録番号
161	常滑？	甕？	体部	32-40北半	暗一黒褐色含層	44.4	N6/1灰	ROr138と接合・押印(縦長格子文)	80ROr116
169	瀬戸	鉢？	体部	E33-S40	検出面	49.7	表:N6/0灰 裏:10YR5/2灰黄褐		80ROr197
170	瀬戸	壺？	体部	29SDI (33-40)	埋土	141.9	7.5YR7/1灰白	外面に降灰釉	80ROr120
171	瀬戸	甕	体部	29SDI (33-40)	埋土	71.5	2.5Y7/1灰白	押印(格子文)	80ROr121
172	瀬戸	甕	体部	33-40	暗褐色含層	23.1	表:N5/0灰 裏:2.5Y7/1灰白	押印(平行条線文)	80ROr202
173	常滑	甕	体部	33-40	暗褐色含層	19.5	表:5YR3/1黒赤褐 裏:10YR4/1褐灰	押印(平行条線文？)	80ROr203
179	常滑	甕	体部	34-40	検出面	23.2	表:N4/0灰 裏:7.5YR5/3にぶい褐	押印(格子文)	80ROr135
180	常滑	甕	頸部	34-40	カクラン	28.9	表:5Y7/1灰白 裏:7.5YR4/2灰褐		80ROr139
181	瀬戸	甕	体部	34-40	検出面	108.8	10YR6/1褐灰	押印(平行条線文)	80ROr136
182	瀬戸？	甕	口縁部	34-40東端	カクラン	56.9	2.5YR4/2灰赤	内面に降灰釉	80ROr168
183	常滑	甕	肩部	34-40	カクラン	33.3	表:7.5Y5/3灰オリーブ(釉) 裏:5Y6/1灰	外面に降灰釉	80ROr133
184	常滑	山茶碗	体部	34-40東端	カクラン	4.4	5Y7/1灰白		80ROr170
185	常滑	山茶碗	体部	34-40	検出面	5.4	2.5Y7/1灰白		80ROr196
186	常滑	甕	体部	34-40	道構検出面	17.9	表:10YR7/3にぶい黄橙 裏:2.5Y7/3浅黄	押印(縦長格子文)	80ROr190
187	瓶恵部系	四耳壺	口頸部	34-40	検出面	36.1	表:N5/0灰 裏:7.5YR5/1褐灰		80ROr134
191	瀬戸	甕	体部	34-40	検出面	104.1	N6/1灰	押印(平行条線文)	80ROr138
200	常滑	片口鉢	口縁部	31-41	暗一黒褐色含層	11.5	7.5Y7/1灰白		80ROr161
201	常滑	甕	体部	30-40-41(T5)	一括	20.8	表:5YR6/3にぶい赤褐・7.5Y6/3オリーブ黄(釉) 裏:5YR6/6橙	外面に降灰釉	80ROr10
202	瀬戸	甕	体部	30-40-41(T5)	一括	15.1	5Y7/1灰白	外面に降灰釉	80ROr6
210	瀬戸	甕	体部	34-41	暗褐色含層	50.7	表:N5/0灰 裏:N7/0灰白	押印(縦長格子文)	80ROr80
215	瀬戸	甕	体部下半	30-42	暗褐色含層	124.8	表:N6/1灰 裏:7.5Y5/3灰オリーブ(釉)	押印(平行条線文)・内面に降灰釉	80ROr228
216	常滑	甕	体部	30-42	暗褐色含層	29.0	7.5YR5/2灰褐	ROr233と接合	80ROr218
217	常滑	甕	体部	30-42	暗褐色含層	14.3	2.5YR5/4にぶい赤褐		80ROr219
218	常滑	山皿	体部	30-42	暗一黒褐色含層	1.7	7.5Y7/1灰白		80ROr236
230	瀬戸	甕	体部	31-42	暗一黒褐色含層	32.3	N7/0灰白	ROr231と接合	80ROr230
231	瀬戸	甕	体部	31-42	暗褐色含層	42.3	表:10YR7/2にぶい黄橙 裏:5Y6/1灰	押印(格子文)	80ROr222
232	常滑	甕	体部	31-42	暗一黒褐色含層	35.0	表:10Y5/2オリーブ灰(釉)，7.5YR3/2黒褐 裏:7.5Y5/3灰オリーブ	押印(縦長格子文)・内外面に降灰釉	80ROr233
233	常滑	甕	頸部	31-42	暗一黒褐色含層	15.3	10Y6/1灰	外面に降灰釉	80ROr270
235	常滑	片口鉢	口縁部	31-42	暗褐色含層	10.9	表:5Y5/1灰 裏:5Y7/1灰白		80ROr224
246	瀬戸	甕	体部	32-41	暗一黒褐色含層	15.6	表:10YR7/1灰白 裏:7.5YR4/2灰褐	ROr292と接合・内面に降灰釉	80ROr188
247	瓶恵部系	甕	体部	32-42	暗一黒褐色含層	19.7	N7/0灰白	外面タタキ	80ROr276
248	常滑	甕	体部	32-42	暗一黒褐色含層	38.0	表:10Y5/2オリーブ灰 裏:10YR6/4にぶい黄橙	外面に降灰釉	80ROr277
262	瀬戸系	甕	体部	33-42	黒褐色含層	22.3	2.5Y7/4浅黄	ROr71と同一個体	80ROr299
263	瀬戸	壺	体部	33-42	検出面	16.7	表:10Y7/1灰白 裏:7.5Y6/1灰	猿文・押印(平行条線文？)	80ROr61
264	瀬戸	甕	体部	33-42	検出面	36.0	N5/0灰		80ROr62
265	常滑	甕	体部	34-42	検出面	31.3	表:7.5YR4/1褐灰 裏:7.5Y5/1褐灰	押印(平行条線文)・ミケ焼成	80ROr51
266	常滑	片口鉢	口縁部一体部	33-42	黒褐色含層	152.2	N7/0灰白		80ROr269
269	常滑	甕	頸部	33-41-42(T4)	一括	16.0	表:7.5Y5/3灰オリーブ(釉) 裏:2.5YR4/4にぶい赤褐	外面に降灰釉	80ROr9
285	常滑	片口鉢	体部	30-43	暗褐色含層	47.6	表:5Y7/1灰白 裏:10Y5/2オリーブ灰(釉)，10Y8/1灰白		80ROr308
301	常滑	甕	体部	30-44	暗褐色含層	60.5	表:7.5Y7/1灰白 裏:2.5Y5/1黄灰	押印(格子文)	80ROr229
304	瀬戸	壺類	体部	調査区内	一括	30.7	N5/0灰		80ROr14
305	瀬戸	甕	胴部	調査区内	一括	138.8	表:7.5Y6/3オリーブ黄(釉) 裏:N6/1灰	押印(平行条線文)・外面に降灰釉	80ROr12
306	瀬戸	甕	体部	調査区内	一括	26.2	N7/0灰白	押印(平行条線文)	80ROr21
307	常滑	片口鉢	底部	調査区内	一括	74.8	7.5Y7/1灰白		80ROr13
308	瀬戸	甕	底部	調査区内	一括	97.8	底部内:7.5YR5/3にぶい褐 底部外:7.5YR6/1褐灰		80ROr15
309	常滑	甕	体部	調査区内	一括	44.1	表:10YR5/1褐灰 裏:10YR6/1褐灰	押印(平行条線文)	80ROr16
310	常滑	甕	頸部	表土	表土	17.3	5YR4/6にぶい赤褐	3期式？	80ROr174
311	常滑	甕	底部	調査区	カクラン	63.2	表:5Y4/1灰 裏:10YR4/2灰黄褐		80ROr195

表9　遺物観察表（中国産磁器）

登録番号	種別	産地	器種	部位	出土地点	層位	重量（g）	色調	登録番号
21	白磁	中国	碗	口縁部	調査区西縁トレンチ 25SD3延長部(29-35)	埋土	2.6	7.5Y6/2灰オリーブ	80ROg43
39	白磁	中国	壺？	胴部	25SD3・7(32-37トレンチ)	埋土	7.4	2.5GY7/1明オリーブ灰	80ROg59
54	白磁	中国	四耳壺	胴部	29SD1？ 延長部トレンチ(31-39)	埋土	183.9	7.5GY8/1明灰色	80ROg51
55	白磁	中国	碗	胴部	29SD1？ 延長部トレンチ(31-39)	埋土	9.2	5Y7/3純青	80ROg48
68	白磁	中国	壺	胴部	調査区西縁トレンチ 25SD3延長部(29-36・37)	埋土	15.5	2.5GY8/1灰白	80ROg44
84	白磁	中国	碗	底部	29-35	検出面	46.4	10Y7/1灰白	80ROg6
85	白磁	中国	四耳壺	肩部	30-35	検出面	25.9	5Y7/2灰白	80ROg15
86	白磁	中国	四耳壺？	胴部？	30-35	検出面	5.8	7.5Y7/1灰白	80ROg16
90	青磁	中国（龍泉窯）	碗	口縁部	30-36	検出面	4.9	7.5Y5/2灰オリーブ	80ROg17
91	白磁	中国	壺	胴部	31-36	攪乱	9.7	10Y7/2灰白	80ROg24
107	白磁	中国	碗	口縁部	29-37	検出面	21.4	7.5Y7/2灰白	80ROg7
108	青磁	中国（龍泉窯）	碗	口縁部	29-37	検出面	3.0	10Y6/2オリーブ灰	80ROg42
123	白磁	中国	壺	頸部	30-37	検出面	11.5	7.5Y7/1灰白	80ROg11
131	白磁	中国	壺	胴部	32-37	検出面	9.4	7.5Y7/1灰白	80ROg25
138	白磁	中国	四耳壺	肩部	32-39	攪乱	16.9	外:5GY8/1灰白 内:N7/1灰白	80ROg39
139	白磁	中国	水注？	注口部	32-39東半	検出面	6.4	7.5Y7/1灰白	80ROg38
140	白磁	中国	壺	胴部	32-39	検出面	6.0	5Y7/2灰白	80ROg51
162	白磁	中国	壺	胴部	32-40	暗褐色含層	105.5	2.5Y8/1灰白	80ROg50
163	白磁	中国	壺	胴部	32-40	暗褐色含層	21.7	2.5Y8/2灰白	80ROg34
174	白磁	中国	壺	胴部	33-40	検出面	32.7	10YR8/2灰白	80ROg46
175	青磁	中国（龍泉窯）	壺	胴部	33-40	検出面	8.8	外:5Y6/2灰オリーブ 内:5Y7/1灰白	80ROg45
188	白磁	中国	水注	注口部	34-40	検出面	4.5	2.5GY7/1明オリーブ灰	80ROg13
189	白磁	中国	壺	胴部	34-40	検出面	6.1	10Y7/1灰白	80ROg14
209	白磁	中国	碗	口縁部	33-41	暗一黒褐色含層	10.4	5Y7/2灰白	80ROg27
211	白磁	中国	壺	胴部	33-41	検出面	54.9	2.5Y8/1灰白	80ROg47
212	白磁	中国	四耳壺	胴部	33-41	暗褐色含層	5.9	7.5Y6/2灰オリーブ	80ROg22
213	青白磁	中国	瓶	？	34-41	暗褐色含層	0.6	2.5GY8/1灰白	80ROg64
234	白磁	中国	壺	胴部	31-42	暗一黒褐色含層	13.8	7.5Y8/1灰白	80ROg58
249	青磁	中国（龍泉窯）	碗	胴部	32-42	黒褐色含層	20.7	10Y5/2オリーブ灰	80ROg60
267	白磁	中国	壺	胴部	33-42	黒褐色含層	28.6	10YR7/2にぶい黄橙	80ROg20
268	白磁	中国	壺	胴部	33-42	黒褐色含層	10.0	2.5Y7/2灰黄	80ROg19
288	白磁	中国	壺	胴部	30-43	暗一黒褐色含層	16.8	10YR8/2灰白	80ROg62
289	白磁	中国	四耳壺？	胴部	31-43	暗褐色含層	21.2	10Y7/1灰白	80ROg52
290	白磁	中国	四耳壺	胴部	32-43	暗褐色含層	9.7	7.5Y7/1灰白	80ROg53
302	白磁	中国	碗	胴部	30-44	暗一黒褐色含層	4.7	5Y7/1灰白	80ROg55
312	白磁	中国	壺	胴部	調査区内	一括	27.6	2.5Y8/2灰白	80ROg2
313	白磁	中国	四耳壺	胴部	調査区内	カクラン	8.8	5Y7/2灰白	80ROg54
314	青磁	中国	盤？	足部？	調査区内	一括	5.2	5Y6/2灰オリーブ	80ROg3

Ⅲ 総　　括

1　調査成果の概要

(1) 遺　構

今回調査した道路状遺構は、過去、平泉町教育委員会調査の柳之御所遺跡第25次・第29次・第30次調査において、確認されている遺構である。過去の調査を概観すると、第29次調査では、25SD2と25SD3・7の両者が平行して検出され、新旧関係については、同時期のものと位置づけられ、道路状遺構に伴う側溝を示唆する報告がされている。時期については、25SD2から出土した常滑産陶器の年代から12世紀第３四半期末まで存在した可能性を示唆している。また、25SD3・7については渥美・常滑産陶器の12世紀第３四半期のものが出土している。

第30次調査では、同時期の遺構と捉えられていた25SD2と25SD3の両者に時期差があるものと判断している。また、29SD1の遺構廃棄年代を出土遺物から判断して、12世紀第３四半期としている。

今回の調査では、25SD2と新たに検出された80SD1を道路側溝とする道路状遺構（80SC2）と25SD3・7と29SD1を道路側溝とする道路状遺構（80SC1）の二つの道路状遺構が存在したと考えている（道路面は宅地造成による、削平・攪乱によって消失している）。側溝間の道路面と想定される範囲に同時期の遺構が存在しないこと、それぞれ道路状遺構の北側・南側に塀跡が伴うことなどから判断したものである。

二つの道路状遺構は配置から、同時期に存在するものでなく、時間差があったと考えられ、両者の新旧関係を把握することを試みたが明確に判断することは出来なかった。また、道路側溝の堆積土が人為的な埋め戻しを想定させることから、道路の付け替え時に不要になった道路側溝を埋めた可能性が考えられる。新旧関係の把握と道路付け替えの理由を明確にすることが課題としてあげられる。

詳細な時期についても同様である。12世紀代の遺構であることは間違いはない。

道路状遺構以外に掘立柱建物・土坑・柱穴等が検出されている。道路状遺構に伴うもの、あるいは、同時期に存在する可能性が考えられるが、明確に判断することは出来なかった。

(2) 遺　物

① 遺物包含層出土のかわらけ

遺物包含層は暗褐色包含層を上位・暗褐色～黒褐色包含層を中位・黒褐色包含層を下位として取り上げた。

新　暗褐色包含層（上位）→暗褐色～黒褐色包含層（中位）→黒褐色土包含層（下位）古

包含層から出土したかわらけの法量の平均値は口径10.9㎝、器高3.0㎝、底径6.4㎝で、手づくねからわけは、口径11.3㎝、器高2.3㎝である。

包含層上位から出土し実測掲載したものは、ロクロ成形３点、手づくね10点計13点で、口径が平均値を上まわるものがロクロ成形の214、手づくねの165・279、平均値より器高が高いものはロクロ成形の214、手づくねの165である。

器形がロクロ成形のものは外形が直立ぎみに立ち上がる。手づくねは小型のものが多く器形は外形が緩やかに立ち上がるものが多い。

包含層中位から出土し実測掲載したものは、ロクロ成形12点、手づくね46点・内折れ1点、柱状高台1点計60点である。口径が平均値を上まわるものがロクロ成形の237・291・292・295、手づくねの148・152～154・166・193・194・201・205・219～224・240・271～278・286・294・296で、器高が平均値より上まわるものがロクロ成形の192・237・291・292、手づくねの148・154・166・193・194・205・206・219～223・271～278・286・293～296である。口径・器高の平均値より高い数字を示すものがやや多い傾向がうかがえる。

包含層下位から出土し実測掲載したものは、ロクロ成形3点、手づくね12点計15点である。口径が平均値を上まわるものがロクロ成形の190・250・251、手づくねの177・241・252～257である。器高が平均値より上まわるものがロクロ成形の253、手づくねの177・241・252～256である。器形はロクロ成形のものの中には、外形が直立ぎみに外反するもの（190・251）その他のものに大別出来る。手づくねについては、底面が丸底のもの（228・261・272・283）、ほぼ平坦なもの（152・153・166・176・177・178・193・195・196・197・205・207・221～227・240・252・254・255・257・258・260・271・274・275・286・287）、凹凸があるもの（155・157・165・168・206・219・220・227・241・253・273・276・277）の3種に大別される。外形は、口径が平均値より大きいものは、逆くの字状に外反し、比較的小型のものがゆるやかに立ち上がる傾向がある。

② 陶磁器について

出土した陶磁器は遺構内外含め、渥美・常滑産・須恵器系の国産陶器と中国産磁器である。国産陶器については、器種の大部分は甕類で、中には片口鉢（13・16・18・20・24・88・119・129・147・200・235・266・285・307）、山茶碗（184・185）、山皿（218）、須恵器系陶器の四耳壺（38・187）が出土している。

中国産磁器の種別は白磁28点、青磁5点、青白磁1点である。器種は壺類が最も多く、次いで碗・皿（櫛目文が施される青白磁の皿1点）となっている。その他の器種として盤の足部？（314）が出土している。青磁は、いずれも龍泉窯産と思われる。「大宰府分類」に基づいて年代を区分すると、39・162・174・209・211・230？・267・268・288・312がⅡ系、21・54・55・85・91・123・131・138・140・188・212・288がⅢ系である。

※ 中国産磁器の年代観は大宰府分類をもとに記載している。

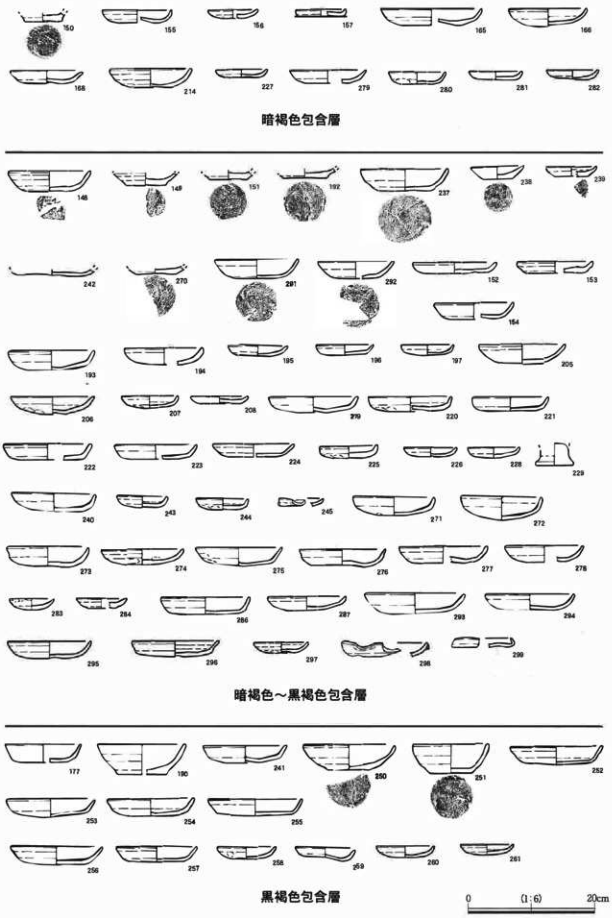


図28 遺物包含層出土のかわらけ集成図

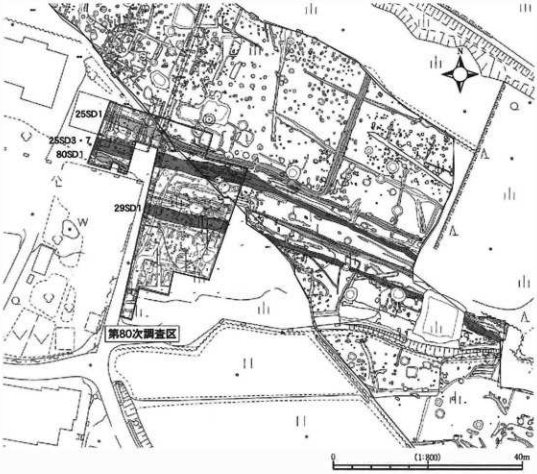


図29　道路状遺構全体図

2　ま　と　め

(1)　平泉町教育委員会調査の第25次・第29次・第30次で検出されている溝跡（25SD2・25SD3・7・29SD1）が二つの道路状遺構を構成する道路側溝として、機能することを改めて確認することが出来た。二つの道路状遺構の新旧関係を示すことが今後の課題である。

(2)　本調査区から南側緩斜面（猫間が淵側）に遺物包含層を確認し、良好な資料を得ることが出来た。

(3)　全体の器形が把握出来るかわらけが多数出土したことによって、かわらけの編年資料等に活かせる追加資料を提示することが出来た。

引用・参考文献

平泉町教育委員会1990『柳之御所跡発掘調査報告書　第24次・25次調査概報』岩手県平泉町文化財報告書第19集
平泉町教育委員会1991『柳之御所跡発掘調査報告書　第27次・29次調査概報』岩手県平泉町文化財報告書第24集
平泉町教育委員会1992『柳之御所遺跡発掘調査報告書　第30次調査概報』岩手県平泉町文化財調査報告書第28集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『柳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
太宰府市教育委員会2000『太宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』太宰府市文化財第49集
岩手県教育委員会2015『柳之御所遺跡－第75次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第144集
岩手県教育委員会2016『柳之御所遺跡－第76次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第147集
岩手県教育委員会2017『柳之御所遺跡－第77次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第150集
岩手県教育委員会2018『柳之御所遺跡－第78・79次発掘調査概報－』岩手県文化財調査報告書第153集

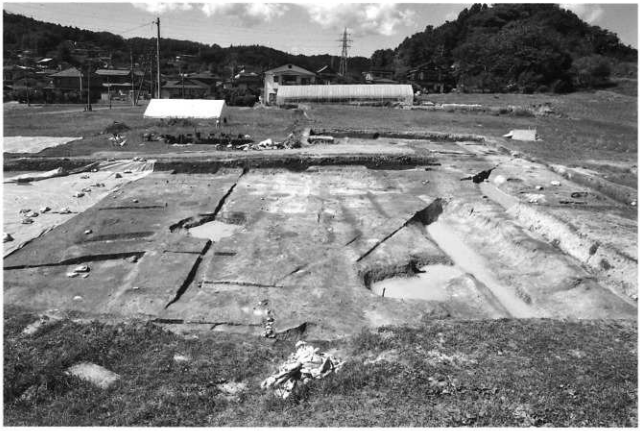
図　　版

図版1　遺構

調査区全景（南→）

東部飛び地トレンチ全景（南→）

80SB1　検出（東→）



80SC1・80SC2　全景（東→）

25SD2（右）と25SD3・7（左）　全景（東→）

25SD3・7と80SA3　西側全景（東→）

25SD3・7　断面 A5-A6（東→）

25SD3・7　断面 B1-B2（東→）

29SD1・80SA1　全景（南西→）

29SD1　断面（東→）

80SA3　断面 A5-A6（東→）

80SA3　断面 B1-B2（東→）

80SA3　底面の立板状痕跡（北→）

80SA1　断面（東→）

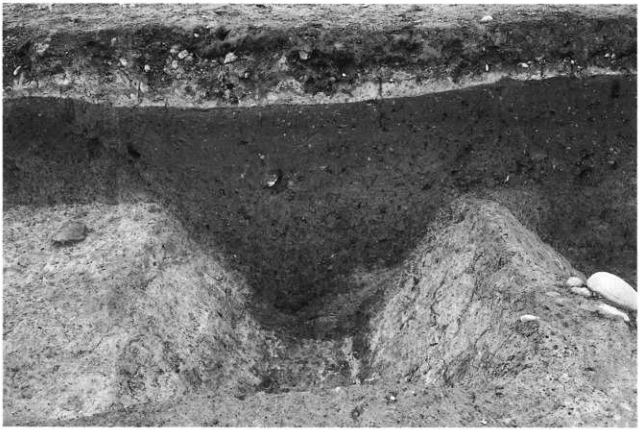
25SD2　西側全景（東→）

25SD2　断面 A5-A6（東→）

25SD2　断面 B2-B3（東→）

80SD1・80SA2　全景（東→）

80SD1　断面 A4-A5（東→）



80SD1　断面 B1-B2（東→）

80SA4　断面（東→）

80SA4　底面の立板状痕跡（北→）

80SA2　全景（東→）

80SA2　断面（東→）

80SD2　検出（東→）

図版11　遺構

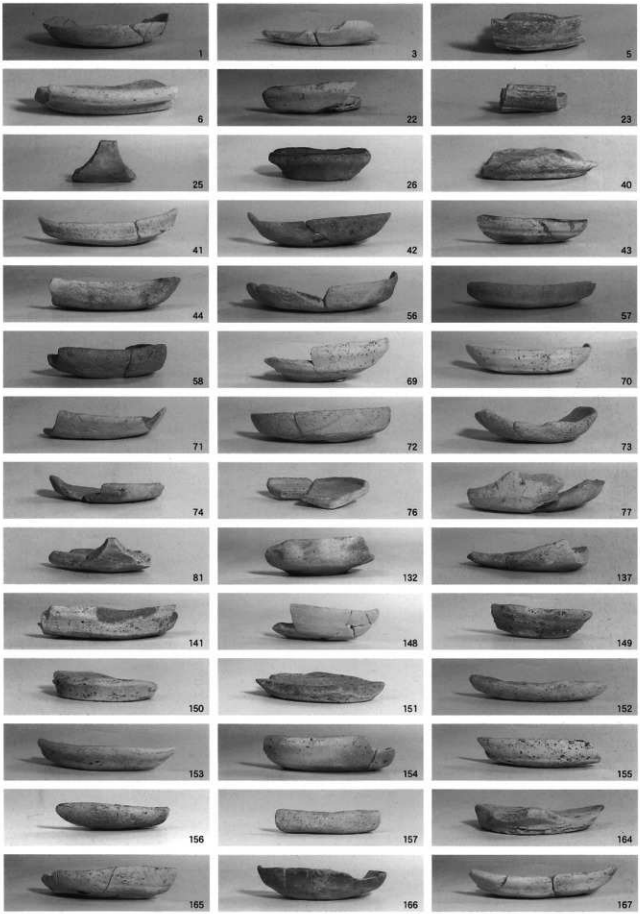
80SD2(30-43周辺)　検出（南→）

80SD2　断面（南→）

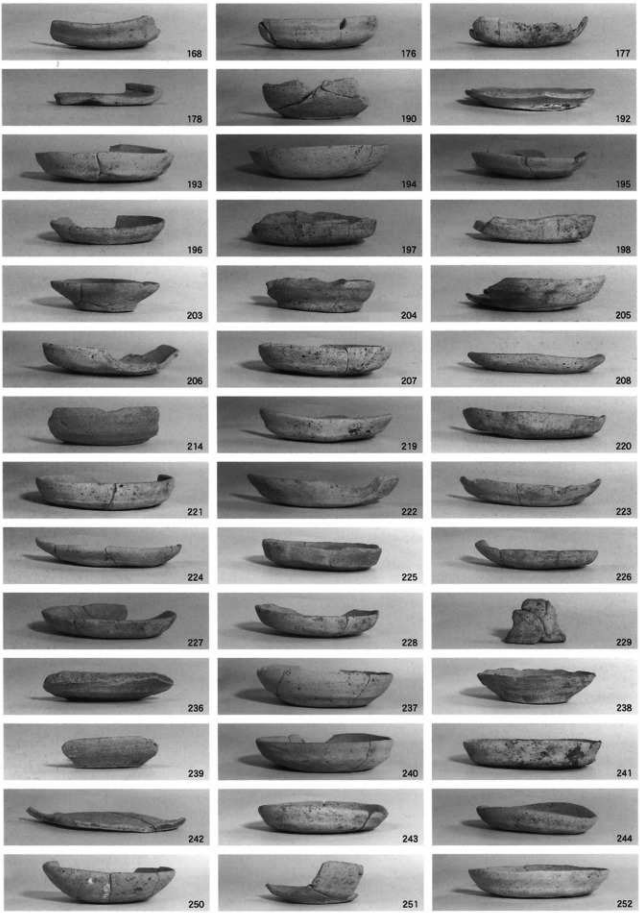
80SD2　遺物出土状況（北東→）

80SD3　断面（南→）

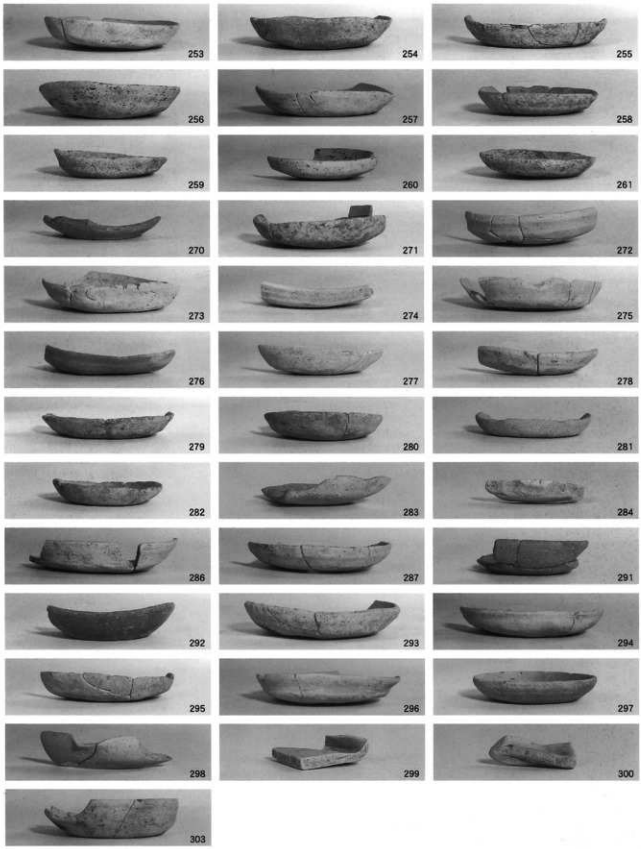
80SD3　検出（南→）


1
3
5
6
22
23
25
26
40
41
42
43
44
56
57
58
69
70
71
72
73
74
76
77
81
132
137
141
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
164
165
166
167

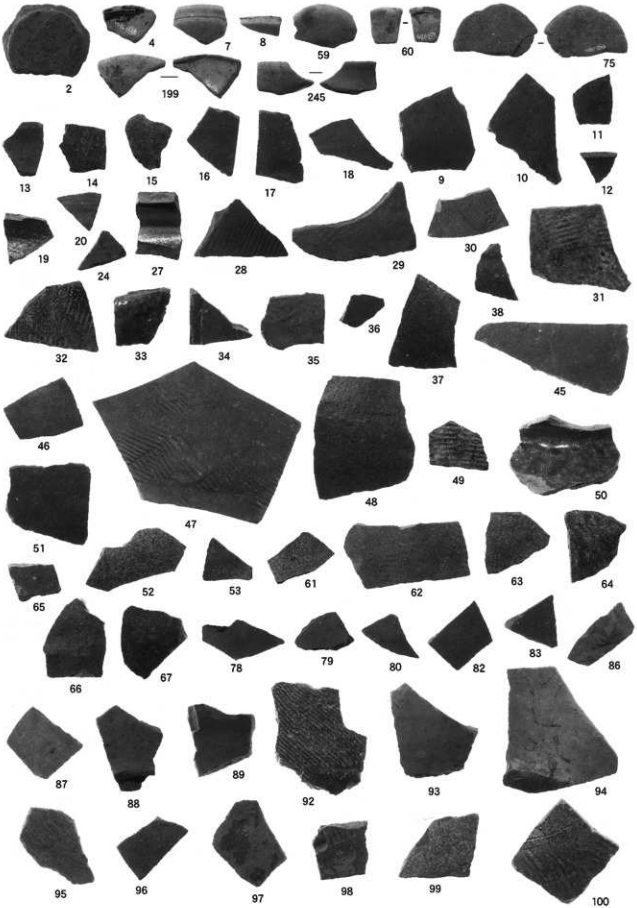
かわらけ①


168
176
177
178
190
192
193
194
195
196
197
198
203
204
205
206
207
208
214
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
236
237
238
239
240
241
242
243
244
250
251
252

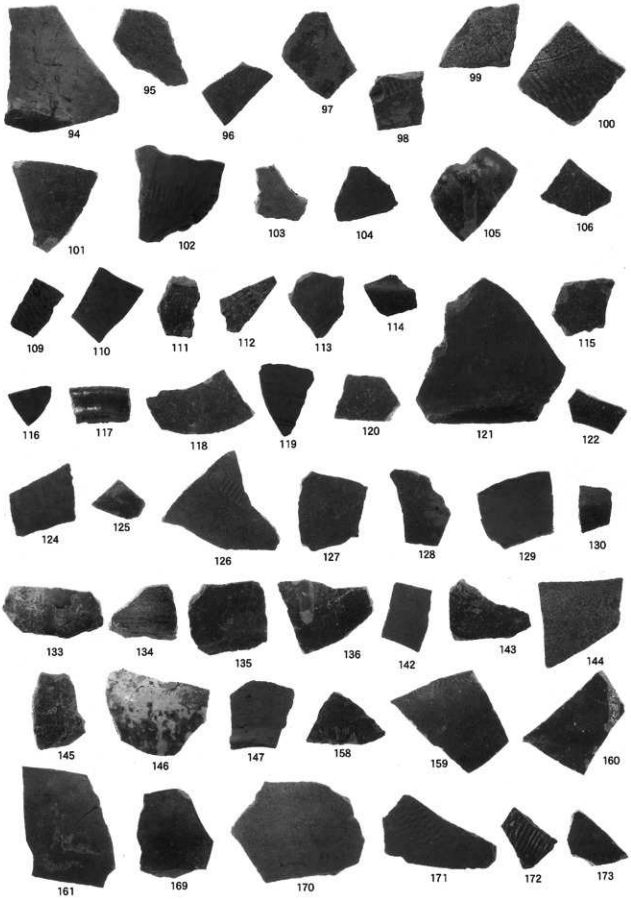
かわらけ②


253
254
255
256
257
258
259
260
261
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
286
287
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
303

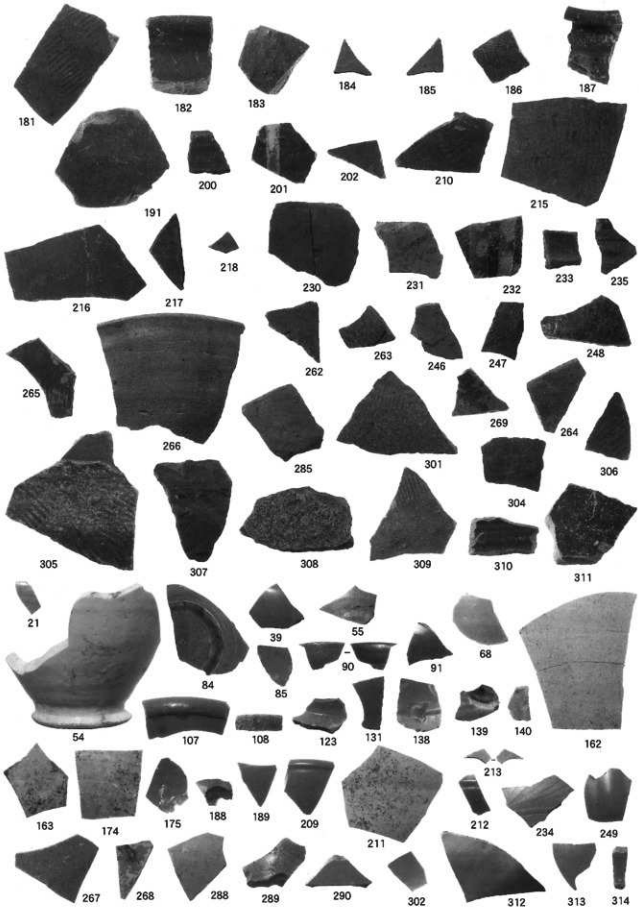
かわらけ③


2
4
7
8
59
60
75
199
245
13
14
15
16
17
18
9
10
11
12
19
20
24
27
28
29
30
31
38
32
33
34
35
36
37
45
46
47
48
49
50
51
52
53
61
62
63
64
65
66
67
78
79
80
82
83
86
87
88
89
92
93
94
95
96
97
98
99
100

かわらけ④・国産陶器①


94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
124
125
126
127
128
129
130
133
134
135
136
142
143
144
145
146
147
158
159
160
161
169
170
171
172
173

国産陶器 ②


181
182
183
184
185
186
187
191
200
201
202
210
215
216
217
218
230
231
232
233
235
262
263
246
247
248
265
266
269
264
285
301
306
304
305
307
308
309
310
311
21
39
55
90
91
68
84
85
54
107
108
123
131
138
139
140
162
213
163
174
175
188
189
209
211
212
234
249
267
268
288
289
290
302
312
313
314

国産陶器③・中国産磁器

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ　やなぎのごしょいせき
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書　柳之御所遺跡
副書名	第80次発掘調査概報
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書
シリーズ番号	第158集
編著者名	菊池貴広　北村忠昭　櫻井友梓　村上　拓
編集機関	岩手県教育委員会
所在地	〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10-1　TEL019-629-6488
発行年月日	令和2年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
やなぎのごしょいせき 柳之御所遺跡	いわてけん 岩手県 にしいわいぐん 西磐井郡 ひらいずみちょう 平泉町 ひらいずみあざ 平泉字 やなぎのごしょちない 柳之御所地内	0302	NE76-0190	38度59分 28秒	141度7分 35秒	20180711 ～0713	800	記録保存 調査

ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
やなぎのごしょいせき 柳之御所遺跡	居館跡	平安時代	道路状遺構、溝跡、土坑、柱穴状土坑	かわらけ 国産陶器（渥美・常滑・須恵器系） 中国産磁器（白磁・青白磁・青磁）	• 二つの道路状遺構の走行方向と規模を確認した。 • かわらけが大量に出土する遺物包含層を確認した。

要約

柳之御所遺跡第80次調査の概報である。

柳之御所遺跡の堀外部地区の調査で、平泉町教育委員会の過去三度の調査で確認されていた道路跡側溝を追跡調査した結果、二つの道路状遺構を確認することが出来た。道路状遺構の走行方向は中尊寺金色堂に向かっている。二つの道路状遺構の新旧関係を把握するには至らなかったが、来年度も追跡調査を予定しており、新旧関係や新たな追加資料を得ることが期待される。

調査区北側から南側に向かう緩斜面で、大量のかわらけを包含する遺物包含層が確認された。一括廃棄された事が想定され、遺物の帰属年代を検証する資料を得る事が出来た。

岩手県文化財調査報告書　第158集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

－第80次発掘調査概報－

印刷日　令和２年３月26日
発行日　令和２年３月26日

発　行　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課
〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10－1
電話（019）629－6171（代表）
印　刷　株式会社　一関プリント社
〒021-0031　岩手県一関市青葉一丁目7－24
電話（0191）23－4586

©岩手県教育委員会2020

Yanaginogosho Site

The 80th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century

2020

Iwate Board of Education , JAPAN

柳之御所遺跡第80次調査平面図(1/100)